

予選リーグを一勝一敗一引き分けて決勝リ	ーグに進みたい」と、客観的な自己分析をし	たサッカーの日本代表監督に対し、筆者は、	率いる人々に勇気と楽観を与えることが指導	者の任務だと批判している。サッカー、ボク	シング、ゴルフなどのスポーツや、将棋など	の勝負の世界だけでなく、数学の難問を解く	時も、ひるんだり悲観的だったりすると脳は	全開しない。客観的な自己分析や自己懷疑を	していたら、自信は喪失すると言う。	確かに、何かに挑むときには、目の前に立	ちはだかるものに圧倒されないだけの勇気と	楽観をふるい起こすことが必要だろう。そう	しなければ、せっかく持っている能力も活か	されぬまま、自分はだめだとあきらめてしま	うことになりかねない。しかし、自分の身の	程もわきまえずに無理な挑戦をして失敗する	人もいる。冷静に客観的な自己分析をし、自	分に何が足りず、どんな努力をするべきなの	かを知ってこそ、成功は訪れるのではないだ
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

[illegible]

[illegible]

分	の	経	験	を	振	り	返	っ	て	言	え	る	こ	と	は	、	で
い	と	思	っ	て	あ	き	ら	め	た	こ	と	は	当	然	な	が	ら
し	な	い	し	、	い	っ	か	は	で	き	る	だ	ろ	う	と	思	っ
き	ら	め	ず	に	取	り	組	み	続	け	た	こ	と	は	、	気	づ
ら	で	き	る	よ	う	に	な	っ	て	い	た	、	と	い	う	こ	と
小	さ	い	頃	か	ら	運	動	が	苦	手	で	、	恥	を	か	き	た
い	た	め	に	ス	ポ	ー	ツ	か	ら	距	離	を	置	い	て	い	た
、	当	た	り	前	の	よ	う	に	運	動	音	痴	の	子	供	だ	っ
し	か	し	、	中	学	校	の	時	に	入	っ	た	剣	道	部	で	は
の	先	生	に	励	ま	さ	れ	な	が	ら	練	習	を	重	ね	、	毎
で	も	素	振	り	を	続	け	て	い	た	ら	、	新	入	生	が	入
く	る	頃	に	は	、	試	合	の	レ	ギ	ユ	ラ	ー	を	務	め	る
に	力	を	付	け	て	い	た	。	ス	ー	パ	ー	ス	タ	ー	に	は
ず	と	も	、	人	間	並	の	力	は	付	け	ら	れ	る	。	そ	ん
観	の	お	か	げ	で	、	ち	よ	っ	と	し	た	ス	タ	ー	気	分
わ	う	こ	と	が	で	き	た	。									
間	は	、	客	観	的	に	自	分	の	能	力	を	知	っ	て	お	く
も	大	切	だ	が	、	楽	観	的	に	勇	気	を	持	っ	て	挑	戦
こ	と	で	、	今	ま	で	気	付	く	こ	と	の	な	か	っ	た	隠

せ、	てし	も活	思い	疑を	るの	をす	己分	な挑		与え	指導	とが	に気	界の	スポ	筆者	進み	リー	
、勇	しま	かさ	に陥	を生	のだ	する	分析	挑戦	確か	える	者の	能力	合を	有名	ーツ	は、	たい	グを	ワ
気と	う。	され	らせ	み、	ろう。	べき	をし	をし	かに	ること	の任	を開	を入	人の	や将	、昔	い	を一	ー
楽観	。特	れず、	せて	、自	。し	な	、自	して	、自	だと	務も、	花さ	れて	の話	棋な	サツ	と客	勝一	ル
を与	に指	初め	しま	分には	かし、	のか	分に	失敗	分の	考え	、率	せる	勇気	から、	などの	カー	観的	敗一	ド
えら	導者	から	たら、	は到底	、そ	を知	に何	する	身の	てい	いる	るた	と楽	、ひ	の勝	部に	な自	引き	カ
れな	は、	成功	、持	でき	れが	つて	が足	人はい	程も	る。	人々	めには	観を	るん	負の	いた	己分	分け	ッ
け	仲間	は望	っ	やし	悲観	こそ、	りず、	。客	わき		に勇	必要	ふる	だ	世界、	ころ	析を	で決	プ
れば	に希	めな	いて	ない	的な	、成	、ど	観的	ま		気と	であ	い起	ら負	、数	の経	した。	勝リ	日
失格	望を	くな	る能	いう	自己	功は	んな	な自	え		楽観	すこ	こす	け、	学	験や	。だ	ーグ	本
であ	持た	なっ	力		懐	訪れ	努力	自	無		を			自分	の世	、	が	に	代
									理										表
																			の
																			監
																			督
																			が、
																			「
																			予
																			選

出るであらう。だが、無ければ無いなりに工	夫でできるのが我々人間に与えられた叡智なの	ではないだろうか。人類は今、地球温暖化な	どの環境問題と資源の枯渇という経済的死活	問題に直面している。未曾有の危機的状況だ	と言っている。だからこそ、原発の使用とい	う悪魔の誘いに乗ることなく、全世界規模で	協力し合いながら、持続可能な発展を進めて	いくべき時なのだ。	人類の置かれた現実にしつかりと目を向け	れば、原発の危険性を認識し、再生エネルギー	の研究開発と省エネに協力していくしかない	ことがわかる。それが現代を生きる地球人	類としての最低限のモラルであろう。
----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------	---------------------	-----------------------	----------------------	---------------------	-------------------

故	を	起	こ	せ	ば	大	き	な	被	害	が	引	き	起	こ	さ	れ	る	の
も	事	実	で	あ	る	。	最	悪	の	場	合	、	ひ	と	つ	の	国	家	国
民	が	ま	る	ご	と	死	滅	す	る	可	能	性	だ	っ	て	あ	る	の	で
あ	る	。	ま	た	、	あ	ま	り	知	ら	れ	て	は	い	な	い	が	、	原
発	の	原	料	と	な	る	ウ	ラ	ン	の	精	製	や	放	射	性	廃	棄	物
の	再	処	理	に	は	膨	大	な	化	石	燃	料	が	使	用	さ	れ	る	こ
と	に	な	る	の	で	、	実	際	に	は	化	石	燃	料	の	使	用	を	減
少	す	る	こ	と	に	は	な	ら	な	い	と	も	言	わ	れ	て	い	る	の
だ	。	そ	の	よ	う	な	事	実	を	前	に	し	て	な	お	原	発	に	依
存	し	よ	う	と	す	る	の	は	、	あ	ま	り	に	も	目	先	の	経	済
動	向	に	目	が	行	き	す	ぎ	て	、	こ	れ	か	ら	の	人	類	が	地
球	の	中	で	ど	う	末	永	く	共	存	し	て	い	け	ば	い	い	の	か
と	い	う	哲	学	に	欠	け	て	い	る	の	で	は	な	い	だ	ろ	う	
か	。																		
	グ	ラ	フ	1	と	2	か	ら	見	て	も	わ	か	る	こ	と	だ	が	、
温	暖	化	防	止	の	た	め	に	も	、	い	ず	れ	訪	れ	る	化	石	燃
料	の	枯	渇	と	い	う	事	態	に	備	え	る	た	め	に	も	、	人	類
は	再	生	可	能	な	自	然	エ	ネ	ル	ギ	ー	の	研	究	開	発	と	実
用	化	に	急	が	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	。	原	発	を	止	め	れ
ば	電	力	供	給	量	が	落	ち	て	、	経	済	に	大	き	な	影	響	は

ル	の	し	現	だ	活	え	に	炭	そ	迷	供		く	発	万	あ	ル	い	
ノ	ス	か	代	。	の	る	、	素	し	う	給	確	こ	生	人	る	ギ	ず	地
ブ	リ	し	文	そ	数	電	現	の	て	大	を	か	と	す	、	だ	れ	球	
イ	ー	、	明	ん	パ	力	在	排	、	災	止	に	が	る	何	が	枯	温	
リ	マ	福	は	な	ー	は	の	出	地	害	め	人	人	怖	億	、	渴	暖	
原	イ	島	維	状	セ	、	と	量	球	と	ら	類	も	れ	人	、	す	化	
発	ル	原	持	況	ン	ど	こ	を	温	な	し	の	あ	る	、	あ	る	や	
事	島	発	で	で	に	ん	ろ	減	暖	に	て	叡	る	原	、	ろ	う	酸	
故	原	事	き	原	過	な	、	ら	化	あ	い	智	え	子	何	う	化	性	
な	発	故	な	発	ぎ	に	自	し	を	ろ	か	と	る	力	十	化	石	雨	
ど	事	だ	く	を	な	頑	然	い	止	う	ね	こ	の	発	億	燃	料	発	
、	故	け	る	め	い	張	エ	か	め	こ	ば	あ	で	電	人	料	の	生	
原	や	で	か	し	い	つ	ネ	な	、	と	な	ろ	あ	を	と	の	代	を	
発	、	な	も	ま	い	て	ル	ら	二	は	ら	う	ろ	推	い	替	替	防	
が	旧	く	し	っ	い	ま	ギ	な	酸	事	な	か	う	進	い	エ	た	ぐ	
ひ	ソ	、	れ	た	う	っ	ー	い	化	実	か	、	、	す	、	ネ	め	た	
と	連	ア	な	ら	も	た	で	の	、	で	電	、	何	主	、		、	、	
た	の	メ	い	、	事	も	国	の	、	あ	力	千	千	張	、		、	、	
び	チ	リ	。	、	実	民	民	の	、	る	の	い	が	が	、		、	、	
事	ェ	カ	。	、		生	生	の	、	あ	の	い	が	が	、		、	、	

れ	ば	、	原	発	の	安	全	性	の	向	上	に	関	心	を	向	け	、	協
力	し	て	い	く	し	か	な	い	こ	と	が	わ	か	る	。	そ	れ	が	現
代	を	生	き	る	地	球	人	類	と	し	て	の	最	低	限	の	モ	ラ	ル
で	あ	ろ	う	。															

し	て	い	る	わ	け	に	は	い	か	な	い	が	、	現	在	の	と	こ	ろ
自	然	エ	ネ	ル	ギ	ー	で	ま	か	な	え	る	電	力	は	、	ど	ん	な
に	頑	張	っ	て	み	て	も	国	民	生	活	の	数	パ	ー	セ	ン	ト	に
過	ぎ	な	い	。	そ	ん	な	状	況	で	原	発	を	止	め	て	しま	つ	
た	ら	地	球	環	境	も	、	人	々	の	生	活	も	守	っ	て	い	く	こ
と	は	出	来	な	い	だ	ろ	う	。										
	グ	ラ	フ	2	に	も	示	さ	れ	て	い	る	よ	う	に	、	化	石	燃
料	は	二	酸	化	炭	素	を	排	出	す	る	だ	け	で	な	く	、	や	が
て	枯	渴	し	て	し	ま	う	資	源	だ	。	こ	の	ま	ま	化	石	燃	料
が	な	く	な	っ	て	し	ま	え	ば	、	現	代	の	よ	う	に	膨	れ	上
が	っ	た	人	口	を	養	う	こ	と	は	出	来	な	く	な	る	。	人	類
は	、	未	曾	有	の	危	機	に	直	面	し	て	い	る	と	言	っ	て	い
い	。	だ	か	ら	こ	そ	、	再	生	可	能	エ	ネ	ル	ギ	ー	の	研	究
開	発	と	同	時	に	、	原	子	力	発	電	の	安	全	性	の	研	究	開
発	も	、	全	世	界	規	模	で	協	力	し	合	い	な	が	ら	、	同	時
に	進	め	て	い	か	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	の	だ	。	そ	の	よ
う	な	危	機	意	識	を	持	つ	こ	と	な	く	「	脱	原	発	」	を	唱
え	る	の	は	、	あ	ま	り	に	も	無	責	任	で	あ	り	、	怠	慢	で
あ	る	。																	
人	類	の	置	か	れ	た	現	実	に	し	っ	か	り	と	目	を	向	け	

東日本大震災に際しての福島原発事故発生	以降、脱原発を主張する声がマスコミやイン	ターネット上で高まっている。だが、原子力	発電に頼らずに現代の文明社会を維持してい	くことは、現実的に可能なのだろうか。	確かに、福島原発事故だけでなく、アメリ	カのスリーマイル島原発事故や、旧ソ連のチ	エルノブイリ原発事故など、原発がひとたび	事故を起こせば大きな被害が引き起こされる	のは事実である。脱原発論者は、地球温暖化	と原発事故を回避する手段として、風力や地	熱、太陽光などの自然エネルギーの推進を主	張しているが、そのような再生可能エネルギー	ーの研究と開発はもちろんだいに進めていく	べきだろう。しかし、現代人の生活が一日で	も電力の供給を止められれば、多くの人々の	生死に関わる、地震以上の大災害となるであ	ろうこともまた事実である。また、地球温暖	化を回避するためには、二酸化炭素の排出量	を減らしていかなければならず、火力発電に依存
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------

[illegible]

僕	も	人	か	ら	相	談	を	受	け	た	と	き	は	、	た	だ	話	を	す	。	聞	か	せ	て	く	れ	た	先	生	の	お	か	げ	だ	と	感	じ	て	い	ま	に	は	な	っ	て	い	な	か	っ	た	と	し	て	も	、	面	白	い	話	を	決	心	が	つ	い	た	の	で	す	。	そ	れ	も	、	直	接	的	な	答	え	そ	し	て	、	そ	の	夢	を	実	現	す	る	た	め	に	高	校	へ	進	む	と	を	し	て	い	る	う	ち	に	、	僕	自	身	も	何	か	を	表	現	す	う	な	小	説	を	読	ん	だ	り	映	画	を	見	た	り	、	そ	ん	な	こ	た	の	で	す	が	、	先	生	の	話	の	中	に	出	て	き	た	面	白	そ	ど	は	直	接	的	に	は	役	に	立	た	な	い	も	の	ば	か	り	だ	っ	張	っ	て	く	れ	ま	し	た	。	実	を	言	え	ば	、	そ	の	ほ	と	ん	に	対	し	一	つ	一	つ	自	分	な	り	の	回	答	を	出	そ	う	と	頑	を	学	校	の	先	生	に	相	談	し	ま	し	た	。	先	生	は	僕	の	話	か	、	疑	問	に	思	っ	て	い	た	の	で	す	。	僕	は	そ	の	悩	み	高	校	に	進	学	す	る	こ	と	に	は	ど	ん	な	意	味	が	あ	る	の	高	校	に	行	っ	て	自	分	が	何	を	し	た	い	の	か	分	か	ら	ず	し	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	と	は	考	え	て	い	た	の	で	す	が	に	っ	つ	い	て	悩	む	よ	う	に	な	り	ま	し	た	。	漠	然	と	進	学	中	学	三	年	生	に	な	っ	て	か	ら	、	僕	は	進	路	の	こ	と
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

った。今は、誠実に悩みを聞いてくれた親友
に感謝している。
私も人から相談を受けたときは、たとえば
アドバイスをしてあげられなくても、真剣
に、誠実に、話を聞いてあげられる人間にな
ろうと思う。

と	考	え	、	真	剣	に	受	験	勉	強	に	取	り	組	む	よ	う	に	な
な	け	れ	ば	、	自	分	の	進	む	べ	き	道	も	見	つ	か	ら	な	い
こ	と	に	気	付	き	、	も	っ	と	い	ろ	い	ろ	な	こ	と	を	学	ば
そ	し	て	、	自	分	に	は	ま	だ	知	識	や	経	験	が	足	り	な	い
で	、	少	し	ず	つ	見	え	て	く	る	も	の	が	あ	っ	た	の	だ	。
り	た	い	こ	と	を	断	片	的	に	で	も	他	の	人	に	話	す	こ	と
の	か	に	つ	い	て	考	え	る	こ	と	に	な	っ	た	。	自	分	が	や
し	て	い	る	う	ち	に	、	私	は	将	来	自	分	が	何	を	し	た	い
ず	に	よ	く	聞	い	て	く	れ	た	。	そ	う	や	っ	て	友	人	に	話
は	な	か	っ	た	が	、	私	の	話	を	飽	き	る	素	振	り	も	見	せ
た	。	そ	の	時	も	特	に	ア	ド	バ	イ	ス	を	く	れ	た	わ	け	で
い	つ	も	親	身	に	な	っ	て	話	を	聞	い	て	く	れ	る	人	だ	っ
そ	の	友	人	は	話	下	手	な	タ	イ	プ	で	は	あ	る	の	だ	が	、
て	い	た	の	だ	。	私	は	そ	の	悩	み	を	親	友	に	相	談	し	た
す	る	こ	と	に	ど	ん	な	意	味	が	あ	る	の	か	疑	問	に	思	っ
そ	れ	ほ	ど	勉	強	が	好	き	で	も	な	い	私	が	高	校	に	進	学
高	校	に	行	っ	て	自	分	が	何	を	し	た	い	の	か	分	か	ら	ず
ま	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	と	考	え	て	は	い	た	の	だ	が	、
に	つ	い	て	悩	む	よ	う	に	な	っ	た	。	漠	然	と	高	校	に	進
	中	学	三	年	生	に	な	っ	て	か	ら	、	私	は	進	路	の	こ	と

エ	リ	ー	ト	に	な	り	う	る	よ	う	な	知	識	や	教	養	が	身	に	あ	っ	け	ら	れ	る	の	だ	。	役	に	立	つ	可	能	性	は	十	分	に	あ	る	。	将	来	人	を	指	導	す	る	立	場	に	立	っ	た	り	、	専	門	知	識	が	理	解	で	き	な	い	と	処	理	で	き	な	い	よ	う	な	仕	事	を	し	た	り	し	な	け	れ	ば	な	ら	な	く	な	っ	た	時	、	基	礎	的	素	養	と	し	て	中	学	校	以	上	の	中	等	・	高	等	教	育	が	必	要	と	な	る	だ	ろ	う	。	戦	後	に	は	小	学	校	し	か	卒	業	し	て	い	な	い	よ	う	な	知	識	人	も	い	た	が	、	彼	ら	は	勉	強	し	な	か	っ	た	の	で	は	な	く	、	中	学	・	高	校	で	学	ぶ	知	識	を	独	学	で	身	に	つ	け	た	と	い	う	こ	と	だ	。	占	い	師	で	あ	れ	予	言	者	で	あ	れ	、	あ	る	知	識	が	そ	れ	を	持	つ	人	間	の	役	に	立	た	な	い	と	決	定	す	る	事	は	で	き	な	い	。	人	間	の	未	来	は	予	測	で	き	な	い	。	あ	る	知	識	が	自	分	に	と	つ	て	必	要	か	ど	う	か	は	、	自	分	で	は	決	め	ら	れ	な	い	。	将	来	の	状	況	が	決	め	る	こ	と	だ	興	味	が	あ	る	か	な	い	か	に	関	わ	ら	ず	、	学	ん	だ	こ	と	は	役	に	立	ち	う	る	し	、	学	ぶ	機	会	が	与	え	ら	れ	て	い	る	以	上	、	そ	の	機	会	を	有	効	に	活	用	し	な	い	な	ら	、	社	会	や	国	家	に	対	す	る	裏	切	り	と	な	る	だ	ろ	う	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

う	で	と	だ	な	味		う	分	け	国	人	の	声	さ	い	と	て	専	で
な	も	い	が	い	も	そ	か	制	れ	民	材	か	さ	れ	。に	比	い	門	は
知	、	う	、	勉	持	の	ら	が	ば	に	を	。そ	え	、	も	べ	た	分	、
識	人	こ	だ	強	て	よ	だ	生	、	エ	必	の	あ	今	関	て	野	指	
は	の	と	か	を	な	う	ら	な	貧	リ	要	理	る	は	わ	。今	を	導	
な	生	に	ら	多	い	な	ろ	現	富	ー	と	由	な	高	ら	でも	学	的	
い	活	は	言	くの	上	現	う	代	と	ト	し	は	こ	校	ず	も	ぶ	地	
。ま	に	な	つ	の	に	民	。	主	学	に	て	、	う	も	、	そ	た	位	
し	役	ら	て	若	自	主		義	歴	り	い	国	な	中	の	め	に	に	
て	立	な	学	者	分	国		の	の	う	こ	家	こ	学	教	の	就	上	
や、	た	い	ぶ	が	の	家		原	有	る	と	が	と	校	育	基	く	で	
中	ない	。ど	こ	強	将	の		理	無	機	同	が	行	ま	内	礎	要	必	
学・	と断	んな	に	いら	来	事		に	による	会	時	行	わ	で	容	知	な	知	
高	定で	雑	意	れて	に	情		反	実	が	に	わ	け	は	や	識	。昔	識	
校	きる	学	味	いる	意	に		し	質	与	ま	れ	で	な	レ	や	は	や	
では	よ	的	が	わけ	味	無		ま	的	え	な	な	い	い	ベ	。昔	。昔	、	

で	生		り	常	い	進	見	た	が	な	ど	別		う	ど	労	今	く	
十	活	か	、	生	も	学	識	こ	た	く	中	に	確	し	忘	し	ま	さ	現
分	に	つ	人	活	の	の	が	と	く	て	学	す	か	た	れ	て	で	ん	在
に	必	け	生	で	た	た	広	を	さ	も	以	れ	に	勉	し	覚	の	の	私
身	要	ら	を	役	だ	め	く	知	ん	生	降	ば	、	強	え	た	化	の	は
につ	な	れ	豊	に	が	の	な	り	あ	き	の	、	小	は	知	知	学	た	受
けら	知	た	か	立	、	勉	た	、	る	て	学	学	学	無	識	も	式	験	の
れた	識	か	に	た	知	強	り	世	。	い	校	校	校	駄	も	テ	を	丸	た
から	や	ら	す	な	こ	、	す	中	し	く	で	の	の	な	ス	と	暗	記	、
であ	技	た	る	と	そ	し	る	の	か	の	の	読	だ	ろ	が	を	記	し	歴
る。	能	か	も	、	の	な	よ	見	し	困	勉	み	う	う	終	知	て	て	史
中	は	だ	、	楽	は	は	う	え	、	ら	強	書	か	、	わ	っ	い	る	の
学	小	っ	た	し	、	な	な	方	今	い	に	き			ほ	て	。	年	号
校	学	た		い	た	ら	こ	が	ま	よ	は	・			と	あ	そ	の	や
	校	る		も	え	な	と	あ	で	う	、	計			ん	苦	の	一	、
	の	中		で	日	辛	。	り	か	の	知	算					方	た	
	学	学		あ					っ	も	ら	な							
	習	会							つ	の									

なり、逆に卒業していない者は、社会的に未	成熟な人間であるかのように認識されてしま	う。社会生活を送るのに十分な知識は、もう	小学校で身につけているにも関わらずだ。	エリートになることを目指していない者に	とって、中学・高校で学ぶ事柄は、極論では	なく、本当に必要の無い知識なのだ。それを	全ての若者に身につけさせようとする現代の	先進諸国の教育こそ、無理があると言える。	戦後の日本には、政治家では田中角栄、企	業家では松下幸之助や本田宗一郎、作家では	松本清張など、小学校しか卒業していない一	流の知識人がいた。彼らは、小学校卒業程度	の知識が身につけていれば、様々な分野で専	門知識を学んでいくことが可能であり、社会	の中でリーダー的地位につく能力も充分に持	ちうることを証明している。よって、社会人	たりうる十分な知識を小学校で既に身につけ	ている者が、興味もないのに中学校以上の学	校で勉強する必要はないと言える。
----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------

後	の	勉	強	や	訓	練	は	不	可	欠	で	あ	る	。	か	つ	て	初	等
行	し	て	身	に	つ	け	て	い	く	も	の	で	、	大	卒	で	も	就	職
必	要	な	専	門	的	な	知	識	や	技	術	は	、	働	き	な	が	ら	修
生	き	て	い	く	こ	と	は	出	来	る	は	ず	で	あ	る	。	仕	事	に
と	が	し	っ	か	り	定	着	し	て	い	れ	ば	、	十	分	世	の	中	で
識	を	身	に	つ	け	さ	せ	る	場	で	あ	り	、	こ	こ	で	学	ぶ	こ
	そ	も	そ	も	小	学	校	と	は	、	日	常	生	活	で	必	要	な	知
さ	そ	う	だ	。															
な	ど	は	、	大	人	に	な	っ	て	も	使	う	こ	と	は	あ	ま	り	な
で	学	ぶ	方	程	式	や	図	形	の	証	明	問	題	、	国	語	の	文	法
て	お	か	な	く	て	は	困	る	だ	ろ	う	。	し	か	し	、	中	学	校
は	実	際	に	日	常	生	活	で	役	に	立	っ	て	お	り	、	勉	強	し
	確	か	に	、	小	学	校	で	学	ぶ	読	み	書	き	・	計	算	な	ど
て	は	い	け	な	い	の	だ	ろ	う	か	。								
た	な	い	の	な	ら	、	ど	う	し	て	私	た	ち	は	勉	強	し	な	く
に	役	に	立	つ	の	だ	ろ	う	か	。	そ	し	て	、	将	来	役	に	立
と	お	も	う	こ	と	が	あ	る	。	学	校	の	勉	強	は	将	来	本	当
こ	ん	な	も	の	を	覚	え	て	将	来	の	生	活	に	役	立	つ	の	か
一	首	や	元	素	記	号	の	丸	暗	記	な	ど	を	し	て	い	る	と	、
	私	も	勉	強	を	し	て	い	て	、	テ	ス	ト	の	た	め	に	百	人

現代は便利なものに満ちています。足りない	いものなどもうないのではないかと思えるほ	どです。でも、過去を振り返ると、携帯電話	やインターネットがなかった頃も、それより	昔に比べれば便利なものにあふれており、や	はり足りないものなどもうないと思えていた	ことでしよう。スマホのある今のようになど	こにいても誰とでも連絡が取れたり、どんな	ことでも検索できたりするような状況は想像	できなかったはずですが、でも、人々の役に立	つものを生み出そうとする発明家や企業の努	力によって、実際に多くの人たちの生活は豊	かになっていきます。医療の進歩など、その良	い例でしょう。	以上の理由で、便利さを追求していくこと	は社会を確実に豊かにしており、努力して生	み出された新たな豊かさを発見できる広告や	カタログを見られることは、幸せなことだと	思います。
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	---------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------

で	人	に	を	を	便	て	し	り	が	で		豊	広	と	た	や	な	と	
す	生	張	夢	見	利	し	れ	が	で	ほ	確	か	告	だ	せ	り	広	ほ	足
。	は	り	見	つ	な	ま	ま	大	可	し	か	さ	を	と	て	欲	告	し	り
	そ	合	て	け	も	い	ま	き	き	い	に	は	見	言	、	望	の	い	な
	れ	い	、	ら	の	ま	す	な	と	も	、	つ	て	え	手	を	文	も	い
	ま	が	き	た	、	さ	。	な	は	の	い	な	ほ	る	入	刺	面	の	も
	で	生	れ	ら	、	か	し	っ	、	か	ろ	が	し	こ	れ	激	に	が	何
	よ	ま	い	、	な	し	、	て	そ	さ	い	ら	い	と	、	し	感	あ	も
	り	れ	る	た	も	、	、	、	の	か	い	な	も	が	、	ほ	心	わ	な
	も	で	た	手	の	、	今	人	は	疑	の	い	を	れ	本	し	さ	れ	い
	楽	し	め	に	、	楽	ま	不	幸	間	で	し	買	一	当	い	せ	る	は
	し	よ	に	努	し	し	で	に	な	を	、	よ	う	方	に	気	ら	。	ず
	い	う	力	を	そ	な	知	不	な	持	う	う	か	で	豊	持	れ	一	な
	も	。	し	、	う	か	ら	な	、	ま	い	か	。	か	な	ち	一	筆	の
	の	そ	、	生	な	つ	な	る	そ	し	行					を	者	に	、
	に	う	活	活	な	か	か	か	れ	読	為					奮	は	、	次
	な	れ			も	っ	つ	も	ば	ん	は					い	、	そ	々
	ら	ば			の	た	か	と	か							立	そ	ん	
	ず						っ												

[illegible]

や	自	け	て	す	ろ	豊	し	る	な		る	「	れ	望	せ	に	書	わ	
カ	分	が	買	ぐ	う	か	い	の	ど	確	。	豊	、	を	る	ほ	か	れ	筆
タ	は	高	う	に	。	な	もの	は	を	かに		か	そ	刺	た	し	た	者	
ロ	不	ま	こ	買	し	生	のを	楽	を	、		さ	の	激	た	い	告	は	
グ	幸	っ	と	え	か	活	を	し	送	い		」	商	さ	思	と	を	新	
を	だ	て	が	で	し	を	買	い	っ	ろ		と	品	れ	っ	な	見	聞	
見	と	い	で	は	、	っ	い	もの	て	ろ		言	を	、	い	な	つ	の	
る	考	け	き	限	買	い	る	だ	い	ろ		え	買	ほ	い	け	た	中	
ま	え	ば	ず	ら	い	る	よ	。	い	ろ		る	っ	し	人	た	。	に	
で	る	、	、	い	もの	う	に	そ	る	ろ		の	し	気	に	。	広	「	
、	よ	物	ほ	。	が	に	増	う	ほ	ろ		か	ま	持	も	告	カ	ほ	
そ	う	足	しい	お	見	や	し	っ	し	ろ		、	う	ち	ほ	タ	し	し	
ん	な	り	思	金	つ	て	て	見	い	ろ		疑	こ	を	し	ロ	い	い	
な	風	な	う	が	か	い	い	つ	け	ろ		問	と	奮	い	グ	の	もの	
に	に	さ	気	足	て	け	け	つ	を	ろ		抱	い	立	、	で	が	が	
考	考	を	持	り	つ	い	い	け	見	ろ		い	て	た	無	す	。	突	
え	え	感	ち	な	っ	け	け	た	つ	ろ		い	い	さ	理	。	然	あ	
て		、	だ	く	も	だ	ば	ほ	け	誌			の		に	と	。	ら	

れない人はたくさんいて、そういう人たちの
残業がこの社会の生命線を維持しているとい
うことも事実です。残業の時間制限を無理に
やってしまったら、人間社会は一日で崩壊す
ると思います。
働きすぎで体や心を壊してしまうような状
況や、パワハラなどの劣悪な職場環境は、国
を挙げて改善していくべきだと思います。で
も、残業を必ず「悪」とする改革には賛成で
きません。

就	て	に	勝	間	平	い	じ	は	は	習		く	る	広	す	者	と	無	わ
業	ま	決	つ	に	で	う	制	は	何	や	勉	さ	の	告	ー	や	い	理	け
時	せ	め	こ	眠	は	の	限	よ	時	練	強	ん	だ	会	と	政	う	な	が
間	ん	て	と	い	あ	で	時	く	間	習	や	あ	か	社	い	治	残	あ	
を	。	し	が	目	り	は	間	あ	や	で	ス	る	ら	だ	う	家	業	り	
超	ま	ま	で	を	ま	、	内	り	何	マ	ポ	と	、	っ	こ	な	を	ま	
え	た	っ	き	こ	せ	才	に	す	日	ス	ー	い	時	て	と	ど	す	せ	
た	、	た	る	す	ん	能	や	。	も	タ	で	の	間	顧	が	、	る	ん	
か	手	ら	わ	っ	。	あ	り	そ	か	ー	可	は	通	客	し	又	こ	。	
ら	術	、	け	て	凡	る	な	れ	っ	で	、	、	用	に	な	た	と	ま	
と	中	カ	で	頑	人	人	の	ば	て	可	想	想	し	合	も	か	で	た	
言	の	メ	す	張	は	に	に	な	し	が	像	像	な	わ	の	ら	成	、	
っ	医	は	。	る	、	だ	け	ら	ま	、	で	で	終	せ	事	ハ	し	ど	
て	者	一	制	か	秀	け	有	ら	う	別	話	わ	わ	仕	い	イ	遂	ん	
仕	や	生	限	、	才	利	不	な	い	の	で	ら	不	事	も	や	げ	な	
事	め	ウ	時	秀	が	で	い	い	こ	人	す	い	こ	を	あ	め	ら	に	
を	ら	サ	間	に	寝	、	と	う	と	に	の	話	と	し	り	ま	は	辛	
や	ど	ギ	を	も	い	公	と	こ	こ	学	。す	が	い	て	す	、	く	く	
め		に	厳	も	る		と	と	と			た	い	ま	ま	医	も	も	
ら		勝	格																

、

。

日本では当たり前のように残業が行われ、	そのために過労死する人たちがいます。経営	状況の厳しい中小企業などで、低賃金の過重	労働を強要する会社がブラック企業などと呼	ばれたりしますが、大企業においても広告会	社電通で起きた新入社員の過労による自殺が	話題になりました。こうした日本の「働きす	ぎ文化」は欧米諸国から批判的に見られてお	り、国内でも日本の労働文化を変えて残業を	無くしていくべきだという意見は多く、企業	も国も改革に取り組む姿勢を見せています。	でも、残業は本当に「悪」なんでしょいか。	確かに、自殺を決断させるほどのパワハラ	による時間外労働の強要は許せません。収入	の問題とか、職場の人間関係とか、自分のプ	ライドとか、いろいろ事情はあるのでしょ	うが、そんなに追い込まれてしまった時は、自	殺などせず仕事を放り捨ててしまった方がい	いと思います。しかし、誰もが残業しないで	時間内に仕事を終わらせられるほど、優秀な
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

なことをやったという言い訳になるし、会社
や上司に対する復讐にもなる。でも、死んだ
ら負けた。無責任と思われるも、今の職場、
今の人間関係を切り捨てても、生き残った方
がいい。
ブラック企業やプライドのために命を落と
すくらいなら、無責任に仕事を放り出す方を
日本人は選ぶべきだ。

て	殺	イ	げ	た	僚	ロ	逃	的	ん	経	も	ス	い		う	ど	ぶ	必	た
し	す	ド	出	く	や	ッ	げ	な	い	済	や	ト	パ	よ	べ	一	ほ	要	ら
ま	る	。	す	な	仲	プ	て	こ	る	的	め	削	ワ	く	き	切	ど	な	、
う	意	そ	自	い	間	ア	し	と	と	理	ら	減	ハ	ブ	だ	無	に	の	日
の	外	う	分	い	に	ウ	ま	は	は	由	れ	の	ラ	ラ	と	視	追	か	本
だ	に	い	の	う	無	ト	っ	思	な	で	な	た	ク	ク	思	し	い	も	は
。	解	の	弱	羞	責	さ	た	う	だ	仕	い	報	サ	企	う	て	め	し	も
自	決	が	さ	恥	任	せ	ら	、	と	事	は	酬	ー	業	全	ら	れ	れ	っ
殺	の	、	を	心	と	し	、	自	思	を	は	は	ビ	と	て	た	時	な	と
す	手	自	認	。	か	ま	分	の	う	や	な	少	ス	い	無	は	、	。	仕
れ	段	分	め	そ	裏	う	存	存	も	め	ぜ	な	残	う	責	、	少	事	
ば	が	を	た	し	切	と	在	在	、	ら	だ	業	を	言	任	周	な	の	
、	な	縛	く	て	者	い	を	を	も	れ	ろ	強	を	葉	に	围	手	を	
仕	い	り	な	、	と	う	社	社	、	な	う	要	聞	を	投	の	を	抜	
事	よ	、	い	現	か	恐	会	会	も	い	。	す	く	し	げ	迷	く	こ	
よ	う	な	い	実	非	怖	か	か	、	人	も	る	。	出	し	惑	こ	と	
り	に	ぜ	い	か	難	感	ら	場	コ	も	ち	な	激	し	ま	な	も	も	
も	思	か	う	ら	さ	。	逃	か	コ	ろ	ろ	職	し						
困	わ	自	プ	逃	れ	同	ド	ら	さ	ん	、	場							
難	せ	殺	ラ	た	さ					精									

さ	き	反	い	の	し	の	良	な		耐	十	日	ー	ぎ	業	間	っ	殺	
が	だ	省	製	は	た	時	さ	の	確	え	時	本	K	で	が	を	て	し	大
人	と	し	品	な	ら	間	や	か	か	ら	間	語	a	死	厳	減	辞	た	手
々	思	も	や	ん	、	外	、	も	に	れ	も	と	r	ぬ	しく	らす	任	。こ	告
を	っ	ら	、	だ	そ	労	期	し	、	ず	残	し	o	な	く	改	し、	れに	代
過	て	い	期	か	れ	働	限	れ	日	自	業	て	s	ん	制	革	対し	理	店
労	し	たい	限	納	を	に	を	な	本	殺	す	さ	h	い	限	に	電	店	電
死	ま	いし	守	得	欧	よ	し	い	の	す	の	ら	i	う	さ	取	通	の	新
に	う	、	ら	で	米	っ	っ	い	勤	人	が	し	ー	の	れ	組	通	で	入
追	。し	日	ない	い	の	て	守	。商	勉	が	当	い	い	は	ん	んで	は	社	社
込	かし	本	働	外	が	さ	る	品	は	た	たり	。日	う	あ	い	い	社	員	員
んで	、	を	き	国	批	れて	誠	や	世	く	前	本	言	り	は	く	長	が	が
い	そう	真	方	の	判	いる	実	サ	界	さん	で	では	葉	え	は	そ	責	過	過
る	した	似	は、	だ	し	の	さ	ー	に	い	、	は、	は	ない	、	う	任	労	労
の	勤	す	む	悪	り	だ	が、	ビ	誇	る	さ	週	翻	現	働	だ	を	で	自
だ	勉	る	しろ	の	す	と	多	ス	る	文化	に	何	訳	象	き	。残	取		
とし		べ		悪			く	の					不	で、	す				
													能						
													な						

て	態	罪	る	は	え	け	図	た	動		う	に	族	に	厳	れ	ろ	生	
判	が	で	感	、	と	で	っ	り	機	確	意	っ	の	な	罰	る	が	を	残
決	冷	あ	情	少	、	は	た	す	が	か	見	い	精	っ	化	よ	、	図	虐
を	静	っ	が	年	そ	な	り	と	一	に	も	て	神	て	や	う	少	る	な
受	に	て	僕	で	ん	い	し	、	人	、	あ	は	的	き	適	に	年	目	殺
け	調	も	に	あ	な	か	て	そ	を	小	り	考	ケ	ま	用	、	犯	的	人
る	査	、	あ	つ	先	と	も	ん	殺	学	、	慮	ア	し	年	2	罪	で	事
人	さ	そ	り	も	天	感	、	な	し	生	僕	し	を	た	齢	0	の	少	件
権	れ	こ	ま	死	的	じ	ま	連	て	さ	は	て	考	か	引	0	低	年	の
が	、	に	す	刑	人	ま	す	中	み	え	反	用	、	っ	き	年	年	法	犯
僕	客	至	。	を	殺	。被	被害	を	た	も	対	す	凶	下	が	0	化	が	人
た	観	生	し	執	し	害者	の	保	か	が	で	す	悪	求	め	年	や	未	が
ち	的	活	、	行	み	の	こ	護	っ	殺	き		な	ら	れ	以	残	成	が
に	な	状	ど	し	たい	と	う	し	た	人	で	い	殺	る	降	、	虐	年	の
は	ル	況	ん	ほ	い	を	罪	たり	か	を	な	い	人	よ	少	化	化	場	合
あ	ー	や	な	しく	な	考	を	更	ら	犯	い	と	事	う	年	が	指	、	更
り	ル	精	犯	な	人		だ	生	一	し			件	う	法	摘	摘	こ	
ま	に	神	に	な	間		を	を	あ	、					の	さ	さ	こ	
す	従	状	犯	な	に		を	を	つ	そ									
。	つ			な						の									

二〇歳未満の未成年は精神的に未熟だ。そ	んな少年を保護し更生させるためにあるのが	少年法だが、三〇代や四〇代、五〇代や六〇	代の成人でも、精神的に未熟な人はいる。年	齢が二〇歳を超えているというだけで、彼ら	に少年法が適用されないのは不公平だ。未熟	なことに変わりはないのだから、彼らだって	成熟した人間より責任能力は低いはずだ。そ	もそも、完全に成熟した成人なんているだろ	うか。全ての成人が成熟していたら、犯罪な	ど起きないだろう。私は少年法などなくても	いいと思う。未成年も成人と同じ法律で裁き	高校生以下の受刑者は少年刑務所で学校教育	が受けられるなどの更生処置を行えばいい。	特に殺人事件などは、被害者遺族の精神的ケ	アのためにも、成人と同じ厳しさで裁くべき	だし、その方が犯罪防止になると思う。	少年法を廃止しないとしても、適用する年	齢は義務教育中の十五歳以下でいいだろう。	厳罰化は、確実に犯罪を減らすはずだ。
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	---------------------	----------------------	--------------------

、

川崎市で中一生が残忍な方法で殺害された	事件の犯人たちは、少年法が適用される未成年だった。そのため、少年法の厳罰化を求め	る声が、政治家やメディアやネットから多数	上がった。少年事件の凶悪化が指摘される一	方で、実際には少年事件は減少している。未	成熟な少年たちの更生のためには、厳罰化す	るべきでないという人々もいる。	確かに、資料を見ると少年犯罪は近年減少	してきている。また、少年による凶悪事件は	昔からあるもので、現代は治安が良くなった	ため、かえって目立ってしまっただけという見	方もある。現代になって少年事件が特に低年	齢化したり、残虐化したりしているわけでは	ないということだ。私もそう思う。残虐なこ	とをする人間は、時代や年齢に関わりなく、	常に一定数いるものだ。しかし、少年事件の	数が減ったのは少子化のせいで、二〇〇〇年	以降に少年法が厳罰化されたことが効果を上	げているためだとも考えられる。
---------------------	--	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------

はほとんどの場合、女性が改正しているのが現状なわけで、不公平な感じがするのは当然です。しかし、だからと言って日本人が慣れ親しんできた夫婦同姓、家族同姓の慣習破壊を、今の日本人がそこまで必要としているのかというところ、そうでもないような気がします。平成二四年の調査では、三五・五%の人が夫婦別姓導入に賛成していますが、三六・四%の人は現状維持を求めています。社会に大きな影響をもたらすことが予想できるだけに、法改正は別姓賛成派が5割以上になるまでしなくてはいいのではないでしょうか。

夫婦同姓が法的に定められるまで、明治政府は夫婦別姓と民法で定めていました。それが同姓になったのは、明治になって名字を持つようになったになった庶民のほとんどが、結婚後、実質的に男性の姓を夫婦の姓とするようになったという社会状況があり、それに合った法改正が必要になったからだと思います。現代の日本でも、結婚後の夫婦が職場などで元の

日本では結婚した9割の女性が夫の姓に改	姓しています。女性が社会進出し、個人とし	てキャリアを積むようになってきた現代、結	婚に伴って女性ばかりが戸籍や銀行や免許証	やパスポートの変更という面倒な手続きを強	いられ、キャリアを積んだ職場での名字変更	を強いられる状況は、男女平等の原則に反し	ているという意見があり、夫婦別姓にすべき	かどうか議論が行われています。実際に法律	を改正して夫婦別姓を認めれば、日本社会に	大きな影響を及ぼすことが予想されますが、	その必要は本当にあるのでしょうか。	確かに、夫婦同姓が法的に強制されている	と、男性か女性のどちらかが自分のそれまで	の姓を捨てて、馴染みのない別の姓を名乗ら	なければなりません。自分がそんなことをし	なければならなくなったら、とても面倒に思	うでしょうし、自分のアイデンティティが壊	れてしまいそうで不安になると思います。男	女どちらの姓にしてもいいとはいえ、実際に
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

夫婦別姓にとどまらず、成人であれば芸能人の芸名のように好きに自分の氏名を変えられ
る制度にした方が、江戸時代以前の日本に近い
気がするし、自分の名前にもっと誇りを持
てるようになるのではないだろうか。
国が名前で国民を管理する必要がなくなっ
た以上、夫婦別姓だけでなく、氏名改変の自
由も認めたほうが、人権の原理に適用している
と思う。

必	家	ぞ	で	理	方	る	国	名	名		な	そ	た	ず	し	の	ま	制	に
要	族	れ	は	す	が	た	家	前	前	会	ど	も	の	、	、	民	だ	度	も
不	単	に	マ	る	都	め	が	は	は	社	な	、	か	持	江	法	一	が	つ
い	位	生	イ	必	合	に	あ	い	あ	に	い	名	ど	っ	戸	で	二	公	と
の	の	涯	ナ	要	は	は	っ	い	る	も	の	字	う	て	時	は	〇	式	意
で	戸	変	ン	性	い	、	た	の	こ	、	か	を	か	い	代	定	年	に	義
は	籍	わ	バ	は	思	家	方	も	と	学	は	持	は	も	以	め	程	感	を
な	な	ら	ー	否	う	族	が	し	に	校	よ	っ	く	女	前	ら	度	じ	る
い	ど	な	制	定	。	ご	い	れ	名	に	く	て	分	性	は	た	の	る	か
だ	、	I	度	し	私	と	い	な	字	他	分	い	ら	が	の	は	し	も	し
ろ	こ	D	が	い	は	に	の	い	が	の	な	い	し	夫	多	明	れ	し	れ
う	の	が	導	。	、	名	か	の	決	ど	い	ら	い	の	く	治	な	い	が
か	制	与	入	で	国	字	も	し	ま	ん	た	い	。	姓	が	三	い	が	こ
。	度	え	さ	も	が	が	し	れ	っ	な	い	し	た	を	名	一	の	、	こ
い	あ	ら	れ	現	国	決	な	い	て	団	。	意	。	乗	字	年	明	こ	の
っ	れ	て	い	在	民	っ	。	。	い	体	。	味	。	っ	を	の	治	の	こ
そ	も	る	れ	日	を	た	す	特	家	に				い	持	だ	、		の
の	う			本	管	い	す	に	族	も					た				

来	の	伝	統	で	あ	る	と	い	う	な	ら	、	守	っ	て	い	く	こ	と
な	い	の	で	は	な	い	だ	ろ	う	か	。	夫	婦	同	姓	が	日	本	古
か	し	、	慣	れ	て	し	ま	え	ば	そ	う	た	い	し	た	こ	と	で	も
私	た	ち	は	少	な	か	ら	ず	混	乱	す	る	に	違	い	な	い	。	し
の	名	字	と	い	う	常	識	が	壊	れ	れ	ば	、	し	ば	ら	く	の	間
き	な	影	響	を	受	け	る	だ	ろ	う	。	一	つ	の	家	族	に	一	つ
度	で	あ	り	、	こ	れ	を	廃	止	す	れ	ば	文	化	・	社	会	は	大
	確	か	に	、	夫	婦	同	姓	は	日	本	に	定	着	し	て	い	る	制
だ	ろ	う	。																
原	理	に	基	づ	き	、	夫	婦	同	姓	規	定	は	廃	止	す	る	べ	き
れ	て	い	る	。	個	人	の	自	由	を	尊	重	す	る	人	権	思	想	の
連	の	女	性	差	別	撤	廃	委	員	会	か	ら	法	改	正	を	勧	告	さ
国	で	同	姓	を	強	制	し	て	い	る	国	は	な	く	、	日	本	は	国
だ	と	い	う	意	見	は	少	な	く	な	い	。	現	在	、	他	の	先	進
定	に	対	し	、	男	女	同	権	の	立	場	か	ら	改	定	す	る	べ	き
だ	が	、	明	治	三	一	年	に	定	め	ら	れ	た	夫	婦	同	姓	の	規
は	一	憲	法	に	違	反	し	な	い	一	と	い	う	判	決	を	下	し	た
侵	害	し	て	い	る	と	い	う	訴	え	に	対	し	、	最	高	裁	判	所
の	規	定	が	、	憲	法	に	定	め	ら	れ	た	国	民	の	自	由	権	を
	夫	婦	は	同	姓	で	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	と	い	う	民	法

、

。

パでもその年齢の若者は大学などに通っているだろうが、日本に比べて学費が非常に安く無料の国さえあると言う。親に負担をかけずに自力で将来の設計図を描いているのだ。

私は、人間が本当に成人と呼ばれる資格を持つのは、就職して経済的に自立できてからだと考えている。いわゆる社会人であることが、成人の定義だ。だから、中学を卒業して就職した人は、その段階でもう成人だと言っている。

一方、二十代後半でも親のお金で大学や大学院に通っている学生は未成年だ。そのように、人により、本当の成人になる年齢は異なる。でも、それでは制度的・法律的な判断が複雑で難くなる。だから、とりあえず国民共通の成人年齢を決めておく必要はある。それだけのことだ。一八歳でも二〇歳でも、成人もいれば未成年もいる。人によつて事情は異なるのだからそれでいいのだ。外国がどうであつても、また、一八歳の未成年に選挙権を与えて未成年の主張を国政に取り

な	ど	わ	で	歳	い	く	で	治	国	に		げ	ら	今	と	挙	歳	あ	
人	う	れ	大	か	も	な	に	参	で	就	確	る	を	ま	が	権	で	る	成
格	見	て	学	ら	の	い	就	加	は	職	か	必	理	で	、	が	成	。日	人
を	て	い	や	二	で	。一	し	も	ほ	し	に	要	由	二	引	一	人	。日	年
持	も	る	専	〇	は	八	し	結	と	て	、	あ	に	〇	き	歳	本	齡	
っ	成	状	門	歳	な	歳	か	婚	ん	経	、	る	し	歳	下	以	外	を	
て	人	況	学	の	い	を	職	も	ど	濟	昔	の	て	を	げ	の	国	引	
い	と	だ	校	日	。し	成	し	し	の	的	若	者	、	成	の	が	々	下	
な	し	。中	に通	本	か	人	て	て	国	に	は	ほ	わ	人	主	が	、特	げ	
い	て	には	っ	の	し	と	自	。日	が	自	す	と	ざ	と	流	い	に	る	
若	の	引	て	若	、現	す	立	本	一	し	る	ん	成	き	だ	先	べ		
者	責	き	い	者	実	制	て	も	八	て	度	ど	人	た	と	進	き		
も	任	こ	る	の	に	は	い	、一	歳	る	、	が	年	ら	こ	国	だ		
い	を	も	。完	多	は	、	る	歳	を	人	別	本	齡	れ	、	で	い		
る	果	り	全	く	一	に	人	で	成	は	悪	が	を	日	選	は	う		
。ヨ	た	な	に	が	八		は	す	人			、こ	引	本	一	一	議		
ー	せ	ど	、養	親			少		と			れ	き	が	八	八	論		
ロ	る	で		の			な		し			こ	下	こ			が		
ッ	よ			お					、政										
	う			金					外										

昔	の	こ	と	を	言	う	と	、	武	士	が	大	人	の	仲	間	入	り
を	す	る	元	服	は	、	一	四	、	五	歳	で	行	わ	れ	て	い	た
う	で	、	有	名	な	戦	国	武	将	に	は	、	中	学	二	、	三	年
の	年	齢	で	一	国	一	城	の	主	に	な	っ	た	人	も	た	く	さ
い	ま	す	。	今	で	い	え	ば	社	長	を	務	め	て	い	た	わ	け
す	。	今	の	若	者	は	精	神	年	齢	が	幼	い	と	言	う	人	も
ま	す	が	、	イン	ター	ネ	ッ	ト	を	使	っ	て	積	極	的	に	ア	
イ	デ	イ	ア	を	出	し	、	高	校	生	で	起	業	し	て	い	る	若
も	い	ま	す	。	そ	も	そ	も	、	義	務	教	育	は	中	学	校	ま
な	の	で	、	中	学	校	を	卒	業	し	て	す	ぐ	に	就	職	す	る
と	は	十	分	可	能	で	す	。	そ	う	い	う	人	は	経	済	的	に
立	し	て	税	金	を	負	担	し	て	い	る	の	に	、	成	人	と	し
の	権	利	を	与	え	ら	れ	な	い	の	は	理	不	尽	で	す	。	
	一	八	歳	で	は	責	任	感	が	な	い	か	ら	成	人	と	し	て
め	な	い	と	言	う	人	も	い	ま	す	が	、	人	間	は	役	割	を
え	ら	れ	る	と	責	任	感	を	持	つ	動	物	で	す	。	む	し	ろ
人	年	齢	を	引	き	下	げ	た	方	が	、	よ	り	多	く	の	若	者
責	任	を	持	た	せ	る	こ	と	が	で	き	る	と	思	う	の	で	、
っ	そ	の	こ	と	、	中	学	校	を	卒	業	す	る	一	五	歳	を	成
年	齢	に	し	た	ら	い	い	の	で	は	な	い	か	と	思	い	ま	す

日本では選挙権が二〇歳から一八歳に引き	下げられました。それに伴い、現在二〇歳で	ある成人年齢を一八歳に引き下げようという	議論が行われているようです。日本以外の	国々では、世界一八六か国のうち一六二か国	が一八歳を成人年齢にしているとのことで、	日本だけが二〇歳のままにしていることにど	んな意味があるのか疑問を感じます。	確かに、日本で一八歳といえはまだ高校三年	生で、大学受験に向けて親のすねをかじっ	ている人が多いと思います。経済的に自立で	きていない以上、精神的にも親に依存してい	ると言われても仕方がないのかもしれませんが	実際に、未成年の若者の多くが選挙権の引き	下げに不安の声を上げていたようです。しか	し、経済的に自立していないのは大学二年生	の二〇歳でも同じことです。状況的には大し	て変わっていない以上、精神的な成長だっ	たいしてあるわけがありません。この二年の	差にどんな意味があるのでしょうか。
---------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	-------------------

も低下します。

医療を受けられることは基本的人権として認められていることであり、その原則は貧富の差がなくすべての国民に平等であるべきです。よって、これから日本の医療は国民の連帯責任で守っていき、保険だけで賄えない部分は税金で補っていくべきだと思います。

[illegible]

20 × 20

20 × 20

20 × 20

20 × 20

20 × 20

20 × 20

20 × 20

20 × 20

$$20 \times 20$$

20 × 20

 20×20 20×20 20×20

20 × 20

 20×20 20×20

20 × 20

20 × 20

20 × 20

め	無	医	が	の	か	療	し	競		す	割	自	保	医	自	ば	の	日	
に	視	療	背	命	し	も	、	争	医	る	負	由	険	療	由	自	の	本	T
医	す	で	負	を	、	ビ	サ	の	療	の	担	化	適	を	化	由	医	の	P
師	と	金	わ	守	救	ジ	ー	原	の	が	の	の	用	除	で	に	薬	健	P
や	い	持	さ	る	命	ネ	ビ	理	を	、	ま	一	の	き	購	購	品	康	な
看	こ	ち	れ	ー	い	ス	ス	取	象	混	、	環	保	、	入	入	や	保	ど
護	と	の	て	い	う	だ	も	り	徴	合	適	と	用	保	で	で	医	險	海
師	が	命	い	う	理	と	向	入	と	診	外	し	外	險	き	き	療	が	外
な	、	だ	ま	う	屈	い	上	れ	う	療	の	て	の	適	る	う	サ	適	と
っ	一	け	す	経	は	う	す	か	理	い	、	適	診	用	よ	に	ー	用	の
た	人	を	。	済	、	理	る	方	し	制	全	範	を	こ	に	を	れ	貿	易
人	の	い	保	の	医	は	か	が	も	度	額	囲	希	れ	な	、	な	自	由
ち	命	、	適	論	療	分	し	経	し	で	負	内	望	メ	い	患	化	に	よ
に	守	貧	外	を	に	か	れ	済	れ	す	担	の	す	リ	メ	者	に	っ	て
で	る	乏	の	超	一	り	ま	は	ま		に	診	と	カ	リ	が	よ	っ	、
	ー	人	高	え	人	ま	せ	展	せ		自	療	一	な	ど	希	っ		
	た	度	な	た	の	す	ん	す	療		由	は	部	ど	な	す	れ		
				命	使	。	。医	る								れ			

自由と自己責任の原理は、大きな経済格差も生むが、平均的な豊かさも約束する。国民皆保険の制度はやめろべきではないと思うが、混合医療によって自由な競争原理を取り入れて、優秀な医師や病院が金持ちから儲けられる仕組みは作るべきだ。そうすれば一般国民から必要最低限の医療サービス奪うことなく病院経営は安定化するし、不誠実で質の悪い医師や病院を消していくこともできるだろう。

、

も	的	の	あ	こ	兆	そ	医	康	く	理		て	無	自	ト	に	場	最	く
前	に	ほ	る	の	円	の	療	保	た	念	日	あ	料	由	フ	よ	合	低	な
者	発	う	。歴	ま	も	支	費	険	め	と	本	る	サ	診	ォ	に	に	限	と
が	展	が	史的	ま	の	払	の	は	に	し	の	と	ー	療	ンの	よ	の	の	し
後	し	、平	にも	この	額	い	拡大	、世	低	て発	これ	。思	ス	の	無	つ	サ	て	も
者	た	等を	自由	制度	が税	をす	が進	界的	限の	展し	まで		の	で	料の	は	ー	、	大
を	し	掲	を掲	を維	金から	ること	、現	にも	医	てき	、平		生	医	イン	無	価	数	の
上	、	げ	げる	持し	支	ができ	在は	評価	療を	た。	等と		ま	師や	ター	料に	格	の	人
回	一	る	る	てい	払	ず、年	健康	され	受け	だ	連		れ	病	ネ	な	は	々	が
っ	般	社	資	く	わ	間約	保	てい	られ	れ	帯		て	院の	ット	い	下	が	必
た	国	会	本	には	れて	四〇	険だ	る。	る日	本	責		可	の儲	環	く	が	と	す
い	民	主義	主義	無	いる		だけ	日本	る日	の健	任を		能	けが	境や	。w	つ	す	る
う	の	国	国	理	そう			の健	日本				性	増	、ス	i	て	と	
事	平	より		が	だ								だ	え	マ	f	い	す	
実	均	経済											っ	れ		i	く	る	
が	な												つ	ば			し	る	
あ	経												。w				、	る	
る	済												i						
。	力												f						
													i						

医療の自由化とは、医療における保険・診療・薬などについて、法律による規制を緩めて、国民が自己責任で自分の受ける医療サービスを自由に選択できるようにすることだ。	混合診療は医療自由化の一つで、健康保険が適用される診療と、適用されない自由診療を組み合わせた医療サービスが受けられる。だが、現在の日本では国民の間で貧富の差による医療格差が起きないようにするため、混合医療は認められていない。	医療の自由化は進めていくべきだ。確かに混合診療などを認めると、健康保険が適用されない自由診療の枠だけどんどん拡大して、アメリカのように国民の医療格差がとてつもなく大きくなる可能性もある。気付いたら、貧しい人は病院に行ってもまともな診療を受けられないなどということになれば、国民の人権が守られない国になる。しかし、自由な経済活動は様々な社会的批判にさらされていて、くことで向上する。たとえば貧富の格差が大き
---	--	--

、

国防のために沖縄だけに犠牲を強いるのは不当な要求でしかない。

国防はもちろん大事だが、沖縄県民が故郷を守るために基地建設に反対するのは正当なことだ。主張を続けなければ、誰もその痛みを共有しようとしないのでから。

ず、	痛	み	を	共	有	し	よ	う	と	し	な	い	他	の	日	本	人	が	つ	て	く	れ	る	な	ら	そ	の	方	が	い	い	。	に	も	か	か	わ	ら	層	の	観	光	客	も	見	込	め	る	だ	ろ	う	か	ら	、	い	な	く	な	米	軍	キ	ヤ	ン	プ	が	な	け	れ	ば	な	か	っ	た	で	、	よ	り	一	が	、	美	し	い	海	や	古	い	歴	史	を	持	つ	そ	の	土	地	は	、	済	的	に	米	軍	基	地	に	依	存	し	て	い	る	と	も	言	わ	れ	る	と	は	、	何	も	間	違	っ	た	こ	と	で	は	な	い	。	沖	縄	は	経	の	人	た	ち	が	故	郷	の	土	地	を	愛	し	、	誇	り	を	持	つ	こ	が	広	が	り	ジ	ュ	ゴ	ン	が	生	息	す	る	そ	う	だ	が	、	地	元	と	が	予	定	さ	れ	て	い	る	辺	野	古	の	海	岸	は	、	サ	ン	ゴ	問題	と	な	っ	た	普	天	間	基	地	の	代	わ	り	と	な	る	こ	痛	み	を	共	有	す	る	こ	と	は	で	き	な	い	の	だ	ろ	う	か	。	う	か	。	日	本	の	他	の	都	道	府	県	で	、	も	う	少	し	同	じ	と	犯	罪	に	お	び	え	続	け	な	け	れ	ば	い	け	な	い	の	だ	ろ	う	か	。	騒	音	と	事	故	縄	県	民	は	永	遠	に	現	在	の	不	公	平	な	状	況	に	耐	え	続	け	な	け	れ	ば	い	け	な	い	の	だ	ろ	う	か	。	な	の	だ	ろ	う	。	し	か	し	、	だ	か	ら	と	い	う	理	由	で	沖	に	睨	み	を	利	か	せ	ら	れ	る	沖	縄	の	米	軍	基	地	が	必	要	れ	な	い	の	が	現	実	だ	。	だ	か	ら	、	立	地	的	に	も	中	国	る	の	だ	か	ら	、	ア	メ	リ	カ	の	力	が	な	け	れ	ば	国	を	守
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

沖繩は、太平洋戦争の末期に日本の本土で	は唯一戦場になった土地であり、その後数十	年にわたってアメリカに占領されていた。現	在、日米安全保障条約に基づいて日本に設置	されているアメリカ軍の基地の七五%がその	沖縄にある。米軍基地の周辺では、航空機の	騒音や事故、米兵による犯罪が問題となる。	基地が多ければ、それらの問題の発生率も高	くなるのだから、沖縄県民がこれに不満を持	つのは自然なことだ。	確かに、日本の周辺には、クリミア半島を	武力で奪ったロシア、たくさんの日本人を拉	致した過去を持ち核ミサイル実験を繰り返し	ている北朝鮮、そして南シナ海を自国の領海	と勝手に主張して軍事基地を作り、日本の尖	閣諸島の領有も狙っている中国など、危険な	国が多いため、アメリカとの同盟やその軍事	基地が必要であることは理解できる。特に、	日本は憲法九条で戦力の不保持が定められて	いるため、自衛隊の行動は強く制限されてい
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

[illegible]

す。	痛みを分かち合う覚悟をするべきだと思いま	性も感じられませんが、ほかの都道府県民も、	沖縄だけに負担を強いる状況には何の正当
----	----------------------	-----------------------	---------------------

思	え	の	沖	く	危	つ	は	な	必		う	た	の	え	は	と	ん	罪	さ
え	る	受	縄	す	険	分	日	い	要	日	が	。ア	近	て	今	、	な	も	れ
ま	と	け	経	こ	だ	担	本	と	だ	の	よ	。ア	海	い	、	状	し	て	い
す	、	入	済	と	と	し	の	し	と	別	く	メ	に	ま	中	況	ば	い	る
。政	今	れ	の	、	言	て	都	も	、	道	、	リ	撃	。ま	国	に	し	る	だ
府は	は	態	米	中	わ	い	府	そ	れ	県	れ	ち	落	た	の	我	起	け	で
、将	来	勢	軍	国	れ	く	で	が	沖	沖	は	さ	れ	、	間	慢	き	で	な
来的	に	が	基	の	い	べ	縄	沖	縄	縄	や	る	な	、	で	し	て	な	く
に	沖	で	地	海	る	の	の	で	の	は	な	の	な	尖	続	お	、	米	
縄の	他	い	へ	洋	普	う。	負	、	将	事	維	の	事	け	閣	け	り	な	軍
の	の	こ	の	進	天	た	担	来	的	件	持	の	件	ら	諸	な	、	ぜ	関
米	軍	と	依	出	間	だ	を	的	に	も	し	領	あ	ら	島	な	沖	係	者
軍		考	存	へ	基	だ	少	に	米	あ	た	有	り	い	の	縄	だ	に	よ
			、	の	地	だ	し	、	軍	ま	ほ	問	ま	の	か	け	け	が	る
				緊	を	だ	し	、	基			題	し	の		が	そ	犯	犯
				急	早	だ	し		地			を	抱						
				の	急	だ													
				対	に	だ													
				策	無	だ													
				、															

現在、沖縄県にあるアメリカ軍の普天間基地移設問題について、政府と沖縄県の意見が	対立している状態にあります。普天間基地は	周辺に住宅地や学校が広がり、世界で一番危険な基地と呼ばれています。日米両政府の協議により、普天間基地は日本に返還される	ことが決まっております、その代わりの基地をどこへ移設するかが、国と県との争点です。国は	沖縄県内の名護市辺野古へ移すことをアメリカと約束しているのですが、現在の沖縄県知事は県外への移設を国に求め、移設作業は中断しています。	確かに、沖縄県民の立場に立てば、新しい基地は県外へ移設するべきだと思います。沖縄県は戦後しばらくアメリカの占領下に置かれていて、日本へ返還された後もずっと、日米安全保障条約によって日本に置かれている	米軍施設の七五％がここに残ったままです。	全国の中で沖縄の負担だけが突出していて、非常に不公平な状況です。事故の危険にさら
---	----------------------	---	---	---	---	----------------------	--

かかっても子供を預け、自分の輝ける環境を
持ちたいのだろう。それなら初めから子供な
ど作らなければいいと思う。もしかしたら、
本人も子供なんて産まなければよかったと思
っているかもしれない。それならそれでいい
と思う。私も子供なんて産みたくないから。
子供を作りたいのに作れる環境が無いとよ
く言う。でも少子化って、本当は、子供を産
みたくない女性が増えたってことに過ぎない
と思う。少なくとも、私はそうだ。

○

で	う	庭	も	用	機	の	を	保		優	る	な	と	千	だ	話	当	て	い
育	だ	の	と	希	す	数	活	育	政	先	。た	い	い	万	け	が	を	い	る
て	。一	子	、	望	る	は	発	所	府	し	だ	。保	う	円	と	書	数	の	で
ら	日	た	親	者	家	以	に	を	は	た	、子	育	こ	以	い	か	千	だ	は
れ	本	ち	が	が	庭	前	さ	増	数	い	育	園	と	上	う	ら	円	ろ	こ
る	死	を	し	増	の	よ	せ	や	が	け	て	に	だ	、	こ	い	し	う	の
。き	ね	預	し	え	数	り	た	し	増	な	よ	預	の	所	母	る	か	か	母
っ	ー	か	な	た	が	む	。そ	、サ	え	だ	も	け	母	得	親	。彼	ら	。女	親
と、	と	た	け	か	増	し	結	ー	の	と	、自	く	は	限	は	女	ち	の	は
給	投	め	ば	。保	た	ろ	果	ビ	は	思	分	も	暮	を	暮	投	ら	投	本
料	稿	に	な	育	の	大	、保	ス	ら	う	が	、自	ら	受	ら	稿	か	稿	当
以	し	あ	ら	園	は	幅	育	メ	し	。	輝	分	か	け	の	に	の	に	に
上	た	る	な	と	、そ	に	利	ニ	整		く	で	の	て	年	は	い	、児	暮
に	女	施	ら	い	れ	増	用	ュ	え		こ	育	困	い	収	、児	う	童	ら
保	性	設	な	の	。待	え	申	ー	て		と	て	っ	る	が	童	内	手	し
育	は	だ	い	は		い	請	の	本		を	れ	て	金	九	手	容	に	に
費	、自	っ	家	は	利		者	多	格				い	持	千		の	困	困
が	分	そ						様	的					ち	円			っ	っ

子供を保育園に入れられなかった母親が、	その恨みをネットに訴え、それが国会でも取り上げられるほど話題になった。「一億総活躍社会と言ったって、保育園に子供が預けられなければ活躍できない。国は無駄なことに税金を使っていないで児童手当を増やし、保育園を増やし、母親が働きながら子供を育てられる環境をもっと整えろ。でなければ、少子化なんて改善されるわけがない。」そんな訴えが共感を呼び、「日本死ね」など表現の悪さについて与党議員などから批判があると、国会前で「保育園落ちたの私だ」というプラカードを持った人たちが抗議行動をした。テレビでも、この母親に共感する報道が盛り上がっていた。	収入の少ない夫婦は共働きしなければなら	ず、子供を預けなければならないのにそれができないなら、どうやって子育てすればいい	のかと、国に怒りを向けたくもなるだろう。	産みたいのに育てられない社会は、矛盾して
---------------------	---	---------------------	--	----------------------	----------------------

にかく子供を預けられる人員を増やすべきだ
と思います。また、同様に税金を使って保育
園を無料にし、子供を作りやすくすることも
必要だと思っています。
日本を死なせないためであれば、消費税が
上がっても仕方がないと思うので、急いでこ
の対策を実施してほしいです。

で、	保育士の給料や労働条件を改善して、と	るそうです。僕は、消費税を上げてもいいの	働いていない潜在保育士が60万人以上もい	さから、資格を持っているのに保育士として	りません。話によると、給料や労働条件の悪	死を防ぐためには、待機児童を無くさねばな	子供はいなくなり、日本は死にます。日本の	らない夫婦が増えてしまいます。その結果、	ないということになり、結婚しても子供を作	せん。こうなると、子供を作ったら生活でき	たそうなので、共働きでなければ生活できま	ん。最近はお父さん達の給料も少なくなつ	けられなければ、お母さんは仕事ができませ	子供ができてもしっかり子供を保育園などに預	思います。	というメッセージとして受け止めるべきだと	いう表現は、このままだと将来「日本死ぬよ	んでしまいます。ですから、「日本死ぬね」と	題を解決しなければ、日本はいつか本当に死	育てと仕事の両立を妨げるような待機児童間
----	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	-----------------------	-------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------

る	し	い	僕	僕	し		多	く	い	を	そ	子	い	定	日	で	い	で	
社	か	人	に	は	、	確	く	さ	う	表	ん	供	の	員	本	も	記	投	二
会	し	に	も	日	最	か	の	ん	表	し	な	を	が	オ	で	取	事	稿	〇
の	、	そ	死	本	初	に	共	い	現	て	現	保	あ	ー	は	り	さ	れ	一
推	口	ん	ね	人	に	、	感	ま	が	書	状	育	り	バ	今	上	れ	た	六
進	で	な	と	な	聞	一	を	し	が	い	の	園	ま	ー	、	げ	「	年	の
な	は	こ	を	の	いた	日	得	た	過	た	あ	に	す	で	子	ら	保	二	月
ど	少	と	言	で	時	本	た	わ	激	も	回	入	。	入	供	れ	育	、	イ
と	子	言	い	、	は	死	け	け	だ	僕	の	れ	今	保	を	て	園	、	ン
言	化	わ	る	一	僕	ね	で		た	も	ネ	な	回	施	保	大	落	タ	
い	対	れ	こ	日	も	ー			た	の	ッ	か	の	設	育	き	ち	ー	
な	策	と	に	本	反	い			た	投	ト	っ	ネ	に	施	な	た	ネ	
が	や	ム	な	死	感	う			め	稿	の	た	ッ	入	に	り	日	ッ	
ら	女	カ	り	ね	を	表			反	も	ト	お	ト	れ	話	な	本	ト	
、	性	つ	、	ー	抱	現			感	母	の	母	投	た	題	り	死	に	
実	の	き	知	い	き	は			を	さ	投	さん	稿	く	に	ま	ね	匿	
際	活	ま	ら	う	ま	過			抱	ん	議	が	も	も	し	した	！	名	
に	躍	す	な	の	した	激			く	と	の	が	、	と	も	も	と		
は	で			は		だ			も		ち								
子	き								た										

私	傷	ない		ち	の	苦	る	い	て	わ	だ	傷	長	を		り	ん	に	が
た	つ	限	ど	以	だ	し	こ	う	悲	れ	。	つ	で	持	私	す	な	は	身
ち	く	り	れ	上	と	む	と	思	し	た	「	い	し	っ	は	る	死	に	
と	こ	、	だ	に	思	こ	は	う	め	く	い	いた	か	っ	、	の	を	つ	
対	と	A	け	傷	う	と	で	。	る	な	じ	時	な	も	、	は	恐	い	
等	が	I	進	つ	。	が	き	A	能	い	め	、	人	、	簡	れ	る	と	
な	で	は	化	き	A	で	な	I	力	思	ら	思	間	単	で	能	は	は	
他	き	人	し	や	I	き	限	も	「	る	は	。	と	な	は	力	言		
者	時	間	も	す	が	時	り	「	孤	人	人	。	同	る	な	も	え		
に	は	に	、	く	人	、	、	独	を	間	に	む	じ	な	持	つ	い		
な	も	達	傷	る	を	A	、	を	恐	並	並	し	よ	っ	。	の	た		
っ	う	し	つ	こ	超	I	悩	え	れ	ぶ	ぶ	ろ	う	た	だ	か	ら		
て	道	ない	く	と	と	も	み	は	る	よ	よ	、	だ	け	と	。	。		
い	具	。	力	だ	は	「	、	人	能	う	う	差	ろ	た	す	。	。		
る	で	そ	が	。	、	心	悲	間	力	な	能	別	う	り	と	。	。		
だ	は	し	は		私	」	し	を	「	る	力	や	。	、	。	。	。		
。	、	、	れ		た	持	み	持	そ	の	「	偏		。					
						つ	、	え	う		嫌	見							

ん	だ	り	す	る	能	力	を	持	た	な	け	れ	ば	、	人	間	の	感	性
な	い	だ	ろ	う	か	。	傷	つ	い	た	り	、	悩	ん	だ	り	、	苦	し
ち	と	同	じ	弱	さ	を	獲	得	す	る	こ	と	で	も	あ	る	の	で	は
持	つ	こ	と	だ	と	す	る	な	ら	、	そ	れ	は	、	彼	ら	が	私	た
し	か	し	、	A	I	の	発	展	が	よ	り	人	間	に	近	い	能	力	を
そ	れ	を	ス	ク	ラ	ッ	プ	に	す	る	だ	け	か	も	し	れ	な	い	。
I	が	誕	生	し	て	も	、	人	間	は	不	良	品	の	機	械	と	し	て
を	超	え	て	人	間	に	危	害	を	加	え	る	可	能	性	の	あ	る	A
と	こ	ろ	で	、	A	I	は	人	間	の	道	具	だ	。	人	間	の	能	力
	確	か	に	、	ど	ん	な	に	知	能	や	感	性	を	発	展	さ	せ	た
A	I	た	ち	が	登	場	し	て	く	る	か	も	し	れ	な	い	。		
じ	く	、	い	ろ	ん	な	価	値	観	や	性	格	を	持	つ	た	色	ん	な
満	ち	た	価	値	観	も	持	つ	そ	う	だ	。	今	後	、	人	間	と	同
た	人	間	社	会	の	中	で	、	人	間	同	様	に	差	別	と	偏	見	に
ロ	グ	ラ	ム	を	超	え	て	成	長	し	、	差	別	や	偏	見	に	満	ち
I	は	自	己	学	習	し	て	い	く	の	で	、	人	間	の	作	っ	た	プ
造	性	や	芸	術	性	ま	で	身	に	つ	け	て	き	た	よ	う	だ	。	A
に	な	る	小	説	を	書	く	や	ら	、	知	能	だ	け	で	な	く	、	創
チ	ヤ	ン	ピ	オ	ン	を	破	る	や	ら	、	文	学	賞	の	審	査	対	象
	A	I	の	進	化	が	加	速	し	て	い	る	ら	し	い	。	囲	碁	の

に	は	常	に	注	意	が	必	要	と	さ	れ	て	い	ま	す	。	銃	や	刀
な	ど	、	も	っ	と	古	い	技	術	で	生	ま	れ	た	道	具	も	、	多
く	の	犯	罪	に	使	わ	れ	て	お	り	、	自	動	車	な	ど	、	年	間
に	多	く	の	人	間	を	交	通	事	故	で	殺	し	て	い	ま	す	。	元
来	、	人	間	の	発	明	す	る	道	具	は	危	険	な	も	の	だ	ら	け
で	、	A	I	に	始	ま	っ	た	こ	と	で	は	あ	り	ま	せ	ん	。	
	人	間	は	、	危	険	性	が	あ	っ	て	も	自	動	車	を	な	く	そ
う	と	は	せ	ず	、	で	き	る	だ	け	安	全	性	を	高	め	よ	う	と
し	て	そ	の	機	能	や	交	通	制	度	を	発	展	さ	せ	て	き	ま	し
た	。	A	I	は	、	そ	ん	な	交	通	安	全	の	た	め	に	も	開	発
が	期	待	さ	れ	て	お	り	、	近	い	将	来	に	は	交	通	事	故	を
起	こ	さ	ず	に	自	動	運	転	す	る	自	動	車	や	道	路	シ	ス	テ
ム	が	生	ま	れ	る	で	し	よ	う	。	A	I	が	ど	ん	な	に	賢	く
な	っ	た	と	し	て	も	、	人	間	は	そ	れ	を	道	具	と	し	て	使
用	し	、	危	険	な	要	素	を	削	除	し	て	い	く	で	し	よ	う	。
	便	利	な	道	具	は	危	険	な	道	具	で	も	あ	り	ま	す	が	、
危	険	が	こ	の	世	界	か	ら	な	く	な	る	こ	と	な	ど	あ	り	ま
せ	ん	。	そ	う	し	た	危	険	を	減	ら	す	た	め	に	も	、	人	間
は	よ	り	優	秀	な	道	具	A	I	を	開	発	し	、	A	I	の	あ	る
世	界	を	楽	し	ん	で	い	け	る	と	僕	は	思	い	ま	す	。		

瞬間も危険な存在で、そのためそれらの管理	危険な発明をしてきました。それらは今この	兵器や生物・化学兵器など人間にとって大変	てきます。しかし、これまでも人間は、核	れてしまうのではないかという恐怖感も湧い	いつの日か人間はA Iに超えられて、支配さ	創造性や芸術性まで持つてしまうと、本当に	確かに、A Iが知能だけでなく感性や感情	に注意を促す宗教家もいます。	Iは「人間の神に対する挑戦」と考え、これ	人間生活を向上させると信じていますが、A	凌駕する「そうです。彼ら専門家は、A Iが	ターが人間の知性レベルに達する、もしくは	Iも登場し、「2029年ごろにコンピューター	だけでなく感性、創造性、芸術性を持ったA	レイ・カーツワイル氏によれば、今後は知能	など、その進化が止まりません。未来学者の	小説が文学コンクールの一次審査を通過する	世界王者を倒し、日本ではA Iの書いた短編	人工知能・A Iのアルファゴが韓国の囲碁
----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------

て	治	宗	る	代		人	科	る	ぎ	教	そ	神	る	な	の	を	い	は	
中	は	教	こ	国	人	間	学	べ	話	え	し	と	い	い	関	を	が	で	私
立	、	な	と	家	の	の	的	き	も	る	て	何	は	と	係	生	、	き	は
・	宗	の	は	も	生	信	に	か	、	の	、	ら	無	考	を	み	な	な	、
公	教	分	不	、	き	念	は	示	入	が	そ	か	視	え	、	出	い	い	宗
平	と	離	可	正	方	も	根	し	り	宗	の	の	す	て	切	す	亡	と	教
で	の	で	能	義	か	生	拠	て	こ	教	ど	関	る	り	捨	神	く	思	と
あ	分	は	だ	や	ら	ま	の	い	む	だ	ん	係	か	。	て	や	な	う	信
る	離	な	。法	人	信	れ	い	る	余	。超	な	も	、	。戦	て	、	た	。特	仰
こ	で	。法	律	権	仰	、	、	の	地	能	関	つ	ど	。戦	生	現	親	定	を
と	、	律	を	に	が	法	正	が	の	力	係	て	ち	。戦	き	実	族	の	政
だ	、	を	定	対	生	律	義	ま	宗	も	を	ら	ら	。戦	て	の	の	治	治
と	各	め	る	す	れ	が	や	れ	教	超	誰	に	に	。戦	い	と	は	か	
私	宗	こ	と	信	い	生	人	、	で	現	も	せ	よ	。戦	く	し	な	ら	分
は	教	自	自	念	よ	ま	権	そ	、	実	が	現	現	。戦	こ	の	信	離	す
思	に	体	体	と	う	れ	に	こ	生	的	生	実	実	。あ	と	現	じ	る	こ
う	と	が	が	分	に	い	対	か	き	な	か	い	と	。あ	世	界	て	な	と
	つ	政		離	現	。人	す	、	き	お	を	う							

と	い	う	こ	と	は	、	別	の	話	で	は	な	い	だ	ろ	う	か	。	
で	あ	る	と	い	う	こ	と	と	、	政	治	と	宗	教	を	切	り	離	す
立	な	政	府	を	理	想	と	し	た	わ	け	だ	。	し	か	し	、	中	立
い	。	ど	ち	ら	の	信	仰	も	否	定	し	な	い	、	宗	教	的	に	中
公	平	な	政	府	を	築	こ	う	と	し	た	と	こ	ろ	に	あ	る	ら	し
リ	ッ	ク	と	プ	ロ	テ	ス	タ	ン	ト	が	、	お	互	い	に	と	つ	て
は	、	西	洋	キ	リ	ス	ト	教	社	会	で	対	立	し	て	い	た	カ	ト
圧	さ	れ	る	こ	と	に	な	る	だ	ろ	う	。	政	教	分	離	の	起	源
し	か	作	ら	ず	、	そ	の	正	義	と	矛	盾	す	る	価	値	観	は	弾
し	た	ら	、	自	分	た	ち	の	信	じ	る	正	義	に	適	し	た	法	律
	確	か	に	、	一	つ	の	宗	教	組	織	が	政	治	権	力	を	独	占
政	治	と	宗	教	は	本	当	に	分	離	で	き	る	の	だ	ろ	う	か	。
の	分	離	を	原	則	に	す	べ	き	だ	と	言	わ	れ	る	。	で	も	、
権	を	尊	重	す	る	現	代	国	家	の	多	く	は	、	政	治	と	宗	教
さ	れ	、	信	仰	の	自	由	が	守	ら	れ	な	い	。	だ	か	ら	、	人
致	の	国	で	は	、	他	の	宗	教	の	信	者	が	政	治	的	に	迫	害
よ	り	政	教	一	致	の	政	治	が	行	わ	れ	て	い	た	。	政	教	一
前	の	日	本	も	、	国	家	神	道	と	結	び	つ	い	た	天	皇	制	に
イ	ス	ラ	ム	原	理	主	義	が	よ	く	ニ	ュ	ー	ス	に	な	る	。	戦
	宗	教	が	政	治	権	力	を	持	つ	例	と	し	て	、	最	近	で	は

宗教が政治権力と結びつくと、必ずその宗教は腐敗します。本来の教えとは関係のない経済的な利益を求め、対立する者を神の名のもとに断罪します。これでは公平な政治は望めませんし、宗教そのものが墮落して滅んでしまいます。一宗教だけが権力を持てば、ライバルとなる他の宗教を弾圧するでしょうから、信仰の自由も守れません。ですから、政治と宗教は分離しなければいけないのです。確かに、本来の宗教は人々に正しい生き方を教える神聖なものだと言えるでしょう。宗教によって正しい理想へ向かう歩み方は違っても、最終地点である真理はきつと共通するものではないかと思えます。ということとは、人々が共に作る国家の進むべき道も、宗教が正しく照らし出してくれるかもしれません。しかし、人々の生き方を決めるのは宗教的な道德だけではありません。人間の行動は様々な欲望を原理にしており、宗教で縛りつけることは不可能です。
--

ム	う	る	た		ま	ー	る	が	る	楽	り	ゲ	妙	な	リ	ほ	題	ら	文
に	。だ	ら	り	ゲ	れ	ム	。そ	ス	。そ	し	に	ー	な	い	ア	ど	だ	せ	学
は	が、	し	、問	ーム	て	は	うい	ッ	それ	ん	快	内	罪	と	す	興	だ	な	に
ま	、自	い	題解	には	しま	そ	いう	キ	なの	で	感	の	悪	や	る	味	と思	け	も
ら	分を	か	決能	は反	うか	う	もの	リ	のに	い	はあ	色	感	り	ま	がな	わな	れ	あ
ない	管理	ら	力を	射神	ら怖	変	は他	せ	、	るの	に	な	を	残	でな	い。	い	い	る
よう	でき	い	を高	経や	い。	な	にも	ず	他	か	ク	課	抱	した	かな	私	だ	け	し
注	なく	こ	めた	動体		サイ	ある	、	のこ	よく	リ	題	えた	宿題	かや	が怖	な	な	、
意	なる	と	りす	視力		クル	だろ	他	とに	分	アし	を	たま	を	め	いと	ので	いう	ゲ
す	ほ	思	ること	を向		に	うが	集	集中	から	ない	解決	ま	抱	られ	思う	、	ゲーム	を
る	ど	と	もあ	上さ		手	が、	中	でき	なく	うち	す	ま	え	ず、	のは	私	は	子
必	ゲ			せ		軽	ゲ	で	なく	あ	は	ば	ま	ま	、	は、	あ	あ	供
要	ー					に		き	な	時	気	、	の	よ	ク	それ	ま	り	に
は						取		く		も	持	な	ろ	う	リ	間	間	や	や
あ						り		な		あ	ち		だ	な	し				
る						込							。						

、

う	に		し	ゲ	れ	が	た	ア	も		る	制	今	な	く	り	め	も	
人	悪	よ	て	ー	て	技	ゲ	リ	の	確	が	作	の	ら	な	こ	り	携	
が	い	く	し	ム	い	術	ー	テ	あ	か	、	は	世	と	つ	ん	こ	帯	私
い	影	、	ま	に	く	の	な	イ	る	に	、	ク	中	、	た	で	ま	の	は
る	響	暴	う	は	と	発	ど	、	ら	最	最	リ	に	意	経	し	ま	ア	あ
。で	を	力	面	精	い	展	、	オ	し	近	新	エ	は	外	験	ま	な	プ	ま
も、	与	的	は	的	う	を	最	ン	く	の	技	イ	ゲ	に	が	い	リ	り	あ
暴	え	な	確	に	こ	促	新	ラ	、	ゲ	術	ブ	ー	グ	た	と	を	ゲ	ま
力	、	内	実	も	と	進	術	イ	3	ー	を	な	ム	ム	く	、	少	ー	り
表	少	容	に	肉	が	し	使	ン	D	ム	た	仕	が	な	か	や	し	を	を
現	年	の	あ	体	あ	、	う	ゲ	画	の	さ	事	た	ど	ら	め	覗	や	ら
は	罪	ゲ	る	的	る	医	た	ム	像	発	あ	と	く	無	だ	て	い	ら	な
映	を	ー	。	に	だ	療	め	や	や	展	る	認	さ	く	。	。	み	な	い
画	助	ム		も	。	や	、	G	バ	は	思	め	ん	て	も	い	程	。	や
や	長	が		、	し	教	ゲ	P	ー	目	う	ら	あ	も	っ	度	度	と	し
	と	子		健	か	育	ー	S	チ	覚	。	れ	り	よ	た	で	、	し	て
	言	供		康	し	に	ム	を	ャ	ま		て	そ	く	ん	の	の		
		の		を	、	転		使	ル	し		い	の	な	め	め			
		成		害		用		つ	リ	い				る	め				
		長				さ								な					

し	自	せ	い		ら	が	に	の	よ	読	性	ま	と	で	を	強	上	ち	
て	制	ん	理	魅	、	あ	ゲ	よ	り	者	・	た	こ	読	挙	烈	に	、	夢
く	し	。本	由	力	ま	り	ー	う	も	自	暴	、	ろ	み	げ	な	残	目	中
れ	て	もゲ	で	の	ず	ま	ム	に	精	身	力	本	で	続	る	影	虐	を	に
る	楽	ーム	麻	あ	は	す	以	、	神	の	性	文	し	け	こ	響	で	悪	な
は	し	も、	薬	る	読	。ゲ	上	文	に	想	の	字	ま	が	と	を	暴	く	な
ず	め	没	の	レ	書	ーム	に	化	心	像	根	を	い	で	が	力	さ	っ	て
で	ば	頭	う	ジャー	禁	を	心	源	身	力	と	追	ま	可	さ	的	せ	、	や
す	、	し	に	を、	止	麻	の	言	健	は	え	っ	す	。	せ	な	場	め	ら
	人	過	見	魅	す	薬	健	え	康	直	る	目	。	夜	。	合	れ	な	く
	生	ぎ	な	力	こ	と	を	読	悪	接	読	に	。	は	。	に	く	な	る
	を	い	と	が	は	は	を	書	化	的	に	負	。	つ	。	よ	な	る	麻
	よ	う	は	あ	し	非	を	も	さ	。	読	担	。	い	。	つ	。	る	麻
	り	に	で	る	よ	難	を	、	せ	。	書	を	。	。	。	。	。	。	。
	豊	。	可	か	。	す	を	既	要	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	かな	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	もの	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	に	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

プレイステーションやWIIといったテレビゲーム、PＳやDＳといった携帯型ゲームの分野において、日本は世界をリードするゲーム大国です。マンガやアニメとともに、日本はこの文化の発展に人類史上最大の貢献をしてきたと言っているでしょう。ということ	は、もしもゲームが健康に悪い麻薬のようなものだったなら、その人類社会に対する責任も極めて大きいということになります。ですが、ゲームは決して麻薬ではありません。	確かに、ゲームは人間を夢中にさせます。ひとたびゲームを始めるとなかなか止められず、夜更かしをして寝不足になることがあります。身体に間違いなく悪い影響を与えます。またゲームをやりすぎると、目が悪くなる可能性もあります。残虐で暴力的な映像など、精神に及ぼすゲームの悪影響が、少年犯罪の原因として取り上げられることもあります。しかし、これら心身の健康に関わる問題は、ゲームだけに特有なものとは言えません。
---	---	---

う	で	な	い	な	ら	や	は	り	学	校	と	い	う	社	会	空	間	に	復
帰	で	き	た	方	が	い	い	の	で	は	な	い	で	し	よ	う	か		
	と	は	言	え	、	い	じ	め	や	学	校	ア	レ	ル	ギ	ー	を	す	ぐ
に	改	善	で	き	る	と	は	思	え	ま	せ	ん		。 転	校	し	た	先	で
も	同	じ	状	況	に	直	面	し	、	何	度	も	転	校	を	繰	り	返	し
た	人	も	い	る	の	で	、	避	け	ら	れ	な	い	不	登	校	と	い	う
の	は	確	実	に	あ	り	ま	す		。 だ	す	か	ら	、	イ	ン	タ	ー	ネ
ッ	ト	上	の	バ	ー	チ	ャ	ル	ス	ク	ー	ル	の	よ	う	に	在	宅	通
学	で	き	る	学	校	が	増	え	て	、	リ	ア	ル	の	学	校	へ	行	け
な	い	人	た	ち	が	引	き	こ	も	り	に	な	ら	ず	、	社	会	に	参
加	で	き	る	空	間	を	与	え	て	あ	げ	る	こ	と	が	必	要	だ	と
思	い	ま	す		。 実	際	、	そ	う	い	う	学	校	は	増	え	て	い	る
よ	う	で	す		。 た	だ	、	そ	う	な	る	と	将	来	の	就	職	活	動
で	は	、	リ	ア	ル	学	校	を	卒	業	し	た	層	と	、	ネ	ッ	ト	学
校	を	卒	業	し	た	層	と	の	間	に	、	一	定	の	格	差	が	生	ま
れ	る	と	思	わ	れ	ま	す												
	不	登	校	の	増	加	は	仕	方	な	い	こ	と	か	も	し	れ	な	い
の	で	、	ネ	ッ	ト	学	校	を	増	や	し	て	対	処	し	て	い	き	、
そ	の	一	方	で	リ	ア	ル	学	校	を	再	評	価	し	て	い	く	考	え
方	が	広	ま	っ	て	い	け	ば	い	い	と	思	い	ま	す				

と	出	く	と	会	良	思	不	せ	よ	い	た	登		の	不	方	な	ち	
か	せ	気	も	に	い	い	登	る	う	保	、	校	確	で	登	が	ら	に	最
通	る	に	怖	出	と	ま	校	こ	な	健	学	に	か	し	校	増	不	対	近
信	よ	な	い	る	認	す	は	も	人	室	校	な	に	、	を	え	登	し	い
と	う	れ	け	こ	め	。	仕	っ	の	に	に	っ	い	い	選	て	校	、	じ
か	な	だ	ど	と	て	し	方	て	場	こ	来	た	じ	め	択	き	を	い	め
で	人	い	、	な	し	ま	な	し	合	も	と	方	め	を	し	て	苦	め	な
や	な	け	、	く	と	う	し	と	、	っ	心	が	苦	に	た	理	に	の	ど
れ	ら	ど	、	大	、	と	考	考	無	し	身	い	に	し	方	由	の	の	理
ば	、	、	別	人	引	、	え	え	理	ま	に	に	て	て	が	で	の	理	由
よ	勉	、	の	な	き	不	の	わ	に	う	問	決	自	し	良	不	で	の	理
い	強	別	何	っ	こ	登	は	け	学	題	ま	殺	ま	い	、	登	で	の	理
と	は	か	か	て	り	校	も	で	校	が	発	す	っ	、	、	校	不	で	の
思	フ	に	に	し	の	状	ま	す	で	生	生	る	も	、	、	に	登	で	の
い	リ	や	や	ま	ま	態	も	か	授	し	な	な	本	、	、	に	校	で	の
ま	ー	る	る	う	社	を	っ	ら	業	て	ら	ら	当	、	、	に	に	人	た
す	ス	気	学	い	ま	そ	と	、	を	い	ま	ま	に	、	、	に	な	る	人
が	ク	を	ー	う	ま	の	だ	、	受	ま	ま	、	不	、	、	に	る	人	た
、	ー	見	ス	い	ま	ま	と	、	け	、	、	、	登	、	、	に	る	人	た
そ	ル	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

塾に通って勉強も続けていた。でも、学校へ行こうとするためまいがしたり、吐き気がしたり、お腹が下ったりするそうだ。彼女と、「いじめ」を理由に自殺した子たちのニュー・スを比べて思うのは、どうして後者は不登校にならなかったのか、ということだ。無理して学校へ行っていていじめられ、自殺と言う更に無理なことを自分に強制できたのに、なぜか「学校に行かない」という簡単な選択はしない。不登校に、「いじめ」などの明確な原因を求めることはできないのかもしれない。人の心理は微妙で複雑だ。不登校の子を無理に学校へ行かせるのは肉体的・物理的に無理だし、「いじめ」に苦しんでいる子にはむしろ不登校を提案した方がいいような気もする。学校へ来なくても勉強はできる。今後、学校へ通わない人たちの学習や大学受験をサポートするシステムが、もっと必要になっていくと思う。

じ	た	土	る		題	っ	な	た	か	た	置		ち	う	係	よ	に	子	
よ	り	日	。特	私	に	た	い	ち	し	状	い	確	は	。で	悪	る	挙	を	学
う	し	な	にー	の	関	が	。私	が	、	態	て	か	学	も	化	人	げ	不	校
に	て	と	い	友	係	、	も	み	通	で	いた	に	校	、	だ	間	ら	登	に
続	、	友	じ	達	なく	続	学	な	い	勉	く	、	行	。本	ろ	関	れる	校	行
い	友	達	め	と	不	け	校	不	。私	強	ない	人	か	当	う	の	児	き	た
て	人	一	ー	一	登	ら	に	登	も	を	。完	間	な	に	か	は	と	く	なく
い	関	緒	が	緒	校	た	行	校	学	続	全	係	る	こ	。学	だ	い	。そ	なり
た	係	に	あ	に	に	。逆	きた	に	校	ける	に	の	悪	れ	業	ろ	い	の	、
。引	は	シ	つ	来	る	、	く	か	へ	の	。完	化	し	め	の	。次	。原	因	行
き	学	ョ	た	な	人	そ	な	と	来	も	に	た	環	ー	理	は	と	し	か
こ	校	ツ	わ	な	多	う	な	言	な	無	や	境	境	や	由	教	し	て	な
り	に	ピ	け	な	い	い	な	う	な	理	る	に	は	失	で	師	真	く	な
で	来	ン	で	な	ら	う	な	と	な	だ	気	身	を	恋	不	の	っ	な	つ
は	て	グ	は	い	し	問	は	そ	。私	が	が	を		登	校	関	先	な	つ
な	い	へ	な	い	い		あ	う	も	思	な		校	児	た				た
く、	同	行	。。	い	。			で	人	。し	な			た	る				

い	つ	だ	必		じ	い	子	か	な	の	に	自	見	ば	の	い	分	で	る
く	て	が	要	協	め	ゲ	が	ら	く	を	な	分	え	と	境	じ	の	き	。
こ	い	、	な	力	と	ー	、	外	な	や	っ	を	て	思	遇	め	身	る	み
と	な	一	こ	や	い	ム	生	さ	な	め	た	切	き	っ	か	分	分	対	ん
は	い	人	だ	連	う	と	け	れ	っ	に	わ	り	た	。	ら	を	象	な	で
で	と	間	。	帯	も	は	贅	る	た	し	け	を	。	。	脱	を	を	一	緒
き	、	最	。	は	の	関	に	よ	は	だ	で	に	。	。	出	作	に	か	ら
な	自	後	そ	、	遭	わ	さ	う	い	け	し	こ	。	。	し	る	か	っ	た
い	立	は	れ	社	う	り	れ	に	。	。	。	に	。	。	、	と	ら	。	。
思	した	独	否	会	こ	り	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
う	人	だ	定	中	と	ー	私	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	間	。	す	で	は	。	は	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	と	。	る	生	な	。	、	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	して	。	つ	き	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	、	。	も	て	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	生	。	り	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	きて	。	は	る	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

中学生の頃、私はいじめにあつたことがある	ら一度離れて、孤独に耐えることが必要だ。	ようになるためには、自分を取り巻く世間か	かに判断を依存しないで、自分で判断できる	的に自立した、大人になるということだ。誰	きるなどという非現実的な話ではない。精神	覚悟を持つというのは、物理的に孤立して生	さえ難しい。しかし、「独りで生きていく」	テムに依存しなければ、生命を維持すること	生きていくことはできない。様々な社会シス	確かに、物理的・経済的には、独りの力で	悟を持たなければならぬと思う。	い。そのためには、「独りで生きていく」覚	で開いた道の上を、自分の足で歩いていき	誰かの運転する列車に乗って進むより、自分	言葉に従って、誰かの敷いたレールの上を、	人間は孤独を知らなければならぬ。誰かの	本来の自分を自分の元へ取り戻すためには、	したまま生きる人間に、私はなりたくない。	周囲の人間関係に依存し、世間の流れに没
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-----------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------------------

す
こ
と
の
で
き
な
い
人
た
ち
で
す
。

人間は、自然界にある様々なものに依存し	ながら生きています。空気、水、食料、それ	ら自然の生み出す産物に依存しなければ生き	てはいけません。しかし、それだけでは生き	てはいけません。人間が生きていくために不	可欠なもの、それは社会です。社会の中でた	くさんの他者に頼りつつ、自らも頼られる、	そういう社会の一員であることが人間である	ことだと思えます。まさに、「人は独りでは	生きていけない」動物です。	確かに、社会の中にも孤独を感じるこ	とはあります。事故や災害で、家族や友人や	恋人を失ってしまいう人がいます。あるいは、	自ら他者との関係を絶って、一匹オオカミに	徹しようとする人もいます。しかし、そうい	う人たちも、人として生きている以上、社会	から抜け出ることはできません。必ず、見知	らぬ多くの他者に支えられながら生きていま	す。見知らぬ他者は、家族でも友人でも恋人	でもないですが、私が生きていく上で、欠か
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------	-------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

え	る	た	め	に	、	渋	滞	や	排	ガ	ス	汚	染	の	少	な	い	地	方
に	ま	で	同	じ	こ	と	を	要	求	は	で	き	な	い	。	よ	っ	て	、
「	一	家	に	一	台	」	は	都	市	民	の	社	会	モ	ラ	ル	と	し	て
理	念	的	な	目	標	と	す	る	に	と	ど	め	、	全	国	に	法	的	強
制	を	執	行	す	る	よ	う	な	無	茶	は	す	る	べ	き	で	は	な	い
代	わ	り	に	、	大	都	市	内	の	中	心	的	な	エ	リ	ア	で	高	め
の	通	行	税	を	と	り	、	車	の	使	用	を	抑	え	る	よ	う	に	し
た	ら	ど	う	だ	ら	う	。	交	通	手	段	は	他	に	も	あ	る	の	だ
か	ら	、	そ	れ	で	人	々	の	生	活	が	脅	か	さ	れ	る	と	い	う
こ	と	は	な	い	。	車	の	量	が	減	れ	ば	、	交	通	事	故	も	減
り	、	緊	急	車	両	が	足	止	め	を	食	う	よ	う	な	こ	と	も	な
く	な	る	。	も	ち	ろ	ん	、	環	境	に	と	つ	て	も	い	い	。	ま
た	、	大	都	市	で	通	行	税	を	取	る	代	わ	り	に	、	地	方	の
高	速	道	路	料	金	を	下	げ	れ	ば	、	地	方	の	活	性	化	に	も
つ	な	が	る	の	で	は	な	い	だ	ら	う	か	。						
	以	上	の	理	由	で	、	「	自	家	用	車	は	一	家	に	一	台	」
に	賛	成	は	す	る	が	、	そ	れ	は	大	都	市	民	の	社	会	モ	ラ
ル	と	す	る	に	と	ど	め	、	実	際	に	行	う	べ	き	施	策	と	し
て	は	、	大	都	市	内	で	の	自	動	車	の	通	行	に	対	し	て	課
税	す	る	こ	と	を	提	案	す	る	。									

現代は自動車社会だ。世界中の多くの大都市で、毎日交通渋滞が発生している。そんな状況の中で、「自家用車は一家に一台以下にするべきだ」という意見が述べられることがある。私はこの意見に賛成である。	確かに、現代生活に自動車は欠かせない。特に地方では、車以外に交通手段がないような地域が多く、一家に一台では生活どころか生命活動に支障をきたすことにもなりかねない。い。いざという時、病院に行く足の所有を禁止られていたために命を落とすなどということは、受け入れがたい。しかし、それにしても大都市には車が多すぎる。車の過密状態は交通渋滞だけでなく、交通事故の発生率も高める。それは、排気ガスによる空気汚染や地球温暖化といった、環境問題ともダイレクトにつながっている。車の絶対量が一定量を越えないような対策を取らなければ、これらの問題は一向に解決することがないだろう。	とは言え、大都市における車の絶対数を抑
---	--	---------------------

北海道や東北地方などでは、車がなければ	仕事にも買い物にも病院にも行けないという	ことは容易に想像がつく。鉄道が走っている	のはかなり限定されたエリアだけだし、その	他の広大な土地を移動するには、大人であれ	ば一人一台の車が欲しくなる。北海道や東北	に限らず、大都市圏の郊外へ一步出てしまえ	ば、実のところ状況はそれほど変わらない。	現代人は、地方にいても、あるいは地方にい	るからこそ、長距離を移動する手段を必要と	する。都会に比べて、自然環境に与える負荷	の量がそれほど高くない地方の住民が、都市	民が大量に放出する排気ガスや浪費する電力	の穴埋めに、保有する車の量を制限されると	いうのでは、筋が通らない。	以上の理由で、自動車の保有量を一家に一	台と制限するのは、大都市の住民に限るべき	だと私は考える。地方住民の生活に不可欠な	自動車を、制限させることは、現実的に不可	能であろう。
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------

[illegible]